

COMMEMORATING 40 YEARS OF FUKUTAKE EDUCATION AND CULTURE FOUNDATION

COMMEMORATING
40 YEARS OF
FUKUTAKE
EDUCATION
AND
CULTURE
FOUNDATION



COMMEMORATING
40 YEARS OF
FUKUTAKE
EDUCATION
AND
CULTURE
FOUNDATION

教育と文化の灯を次代へ ― 創業の志を胸に

福武教育文化振興財団が設立40周年という大きな節目を迎えるということは、ひとえに地域の皆様、そして当財団の活動を支えてくださった多くの先達のご理解とご支援の賜物です。心より深く感謝申し上げます。

当財団は40年前、私の祖父である福武哲彦の急逝を受け、その遺志を継ぐ形で産声を上げました。私は幼少期に祖父を亡くしたため、直接語り合った記憶は多くありません。しかし、この財団の活動に携わる中で、祖父が郷土の教育と文化に捧げようとした情熱の大きさを、肌で感じるようになりました。「もし今、祖父が生きていたなら、現代の教育や文化の在り方についてどのような対話ができただろうか」――そんな想像を巡らせることが、私なりに祖父の想いを繋いでいく大切な指針となっております。

祖父が蒔いた志の種は、二代目理事長 福武總一郎、三代目理事長 福武純子の手によって大切に育てられてまいりました。福武總一郎は「文化芸術による地域再生」という壮大なビジョンを掲げ、続く福武純子は「一人ひとりの心に寄り添う教育」の重要性を説き、当財団の礎をより強固なものへと築き上げてくれました。この40年の歴史は、活動を支えてくださった多くの皆様と共に歩み、手を携えて紡いできた「意志の継承」の軌跡そのものです。

時代は移り変わり、社会が直面する課題は複雑さを増しています。しかし、いかにテクノロジーが進化しようとも、人間を豊かにし、地域を活性化させる根源が「教育」と「文化」にある事実には変わりはありません。私は、祖父から始まり、叔父、そして母へと受け継がれてきたこの尊いバトンをしっかりと引き継ぎ、次なる時代にふさわしい価値を創造していく決意です。

「子どもは未来からの預かりもの」――祖父 福武哲彦が繰り返し語っていた言葉を、40周年の新たな出発点として改めて胸に刻みます。私たちはこれからも皆様と共に、岡山の未来を耕し続けてまいります。

今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、設立40周年のご挨拶とさせていただきます。

2026年6月

公益財団法人 福武教育文化振興財団
代表理事 松浦俊明



目次

教育と文化の灯を次代へ ― 創業の志を胸に 松浦俊明 2

大原美術館と私 小川洋子さん..... 4

【対談】岡田智美 × 松浦俊明 10

ハロー！ミュージアム助成..... 16

高校生・大学生アクション助成..... 18

瀬戸内スタディツアー..... 20

教育文化賞受賞者の飛躍

介護と演劇の融合：「仮説」から「確信」へ 菅原直樹さん 22

短歌創作の根底にあるのは、10代を過ごした故郷「魂は岡山にある」
大森静佳さん..... 26

中高生と一緒におもてなしからスタート 続けるなかで教育的意義が
たまのスチューデントガイドプログラム..... 30

資料編

福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞 ― 受賞者一覧..... 36

福武文化賞・福武文化奨励賞 ― 受賞者一覧..... 40

福武教育文化賞 ― 受賞者一覧..... 44

助成の歴史 ― 教育..... 46

助成の歴史 ― 文化..... 50

助成の歴史 ― 教育文化..... 52

オーストラリア・プレ体験留学..... 53

講演会・フォーラムの記録..... 54

andF教室の記録 58

福武教育文化叢書の記録..... 60

海の劇場の記録..... 61

財団年表..... 62

役員・評議員一覧..... 64

大原美術館と私

作家

小川洋子さん

OGAWA Yoko

先日、宮城県出身の編集者から、出張で初めて岡山へ行くのだが、空き時間に見学できる、どこかお薦めの観光名所はないだろうか、と尋ねられた。

「どんなに無理をしても、多少仕事は犠牲にしても、倉敷の大原美術館にだけは、是非行って下さい」

と私は即答した。

まだ日本で西洋美術を鑑賞するのが難しかった時代、実業家の大原孫三郎が友人の画家、児島虎次郎をヨーロッパへ送り、美術品を収集して設立した、日本で初めての私立西洋美術館なんです。事業で得た利益を社会に還元したのです。城山三郎さんの本に、『わしの眼は十年先が見える 大原孫三郎の生涯』という評伝があります。タイトルは、孫三郎が実業家として十年先の世の中を見通す力を持っていたという意味ではありません。孫三郎にはっきり分かっていたのは、大原美術館は十年先にも赤字を出し続けることだったのです。そうと分かっているながら、存続させた美術館です。エル・グレコ、ロダン、セザンヌ、マティス、シャガール、ピカソ、カンディンスキー……。こんな田舎にどうして？と思われるような一流作品ばかりです。絶対に、行って下さい。



気づくと私は、岡山県を代表する宣伝部長になったつもりで喋っていた。

私は自分の故郷に大原美術館があることが、自慢でならない。その創設に何の関わりがあるわけでもないのに、なぜか自分の手柄のような気分でのだ。

これまで私が最も多く足を運んだ美術館は、間違いなく、大原美術館である。あそこに行きさえすれば、本物の芸術に会える、という揺るぎない事実は、時に私を励まし、安堵させ、刺激を与えてくれる。自分よりもずっと長い時間を生き抜き、私が死んだあとも変わらずそこにあり続ける作品たち。その生命力に圧倒されながら、畏敬の念を捧げている時、心の中はとても平和だ。

自転車で移動できる範囲が生活のすべてだった高校生の頃、一人で岡山駅から倉敷駅まで電車に乗り、美観地区へ行くのはちょっとした冒険だった。親にも先生にも内緒で、自分の世界を一人の力で押し広げているような、高揚感があった。そこに大原美術館があるからこそ味わえた体験だった。

絵の前に立っている限り、大人たちからあれこれ指図されることはない。見知らぬ誰かとすれ違っても、緊張したり、愛想を振りまいたりしなくていい。たった一人の自分を好きなだけ味わえる。私にとって美術館は、図書館と同じ安全地帯だった。

もう十年以上前になるだろうか。岡山放送局から、大原美術館に関わる小さな物語を募り、朗読会を催したい、とのご相談を受けた。自分にできることならば何でもやります、とお答えした。美術館に恩返

しができれば、との思いからだった。

それは、とてもユニークな企画だった。一つの美術作品について、あるいは建物や風景について、とにかく大原美術館から生み出されたお話を一般の方々に書いていただき、私がいくつか入選作を選び、アナウンサーの方々が美術館の中で朗読する。同時にコカリナやチェロで音楽も奏でられる。

きっかけは、小学生たちが美術館に来て、好きな絵について何でも思ったことを文章で書く、ワークショップだったらしい。『睡蓮』の葉っぱの下に、実際には描かれていないカエルが隠れているのを発見した子がいた。発想の斬新さに驚いた大人たちが、何か芸術的な活動に繋がられないかと考えたのだ。

やがてこのプロジェクトは、『大原美術館とあなたが紡ぐ物語』と題され、回を重ねて現在も続いている。

美術と文学が会おう。融合する。反応し合う。そこに人間の声为重なり、音楽が響く。皆を数々の絵が取り囲み、見守っている。毎回、参加するたび、奇跡的な時間に立ち合っている感動を覚える。

『受胎告知』を一緒に見つめるカップルの、微妙な感情の揺れ。関根正二『信仰の悲しみ』ににじみ出る、生と死のはざまを行く者の健気さ。フォンタナ『空間概念 期待』の一筋の切れ目の奥に潜む、過去の痛み。中村彝『頭蓋骨を持てる自画像』の、死をありのままに慈しむ穏やかさ……。等々、記憶に残る応募作品は数多い。美術との出会いが、これほどまで多様で深みのある物語を生み出すのかと、驚かされる。同じ一枚の絵を鑑賞しても、それを見る人の胸の内で何が起こ

るか、一人一人全く異なる。他人と同じである必要などないし、正しい間違いもない。それこそが、芸術が与えてくれる自由なのだろう。

逆の言い方をすれば、自由の度合いが高ければ高いほど、その人にとって大事な作品になる、ということなのかもしれない。例えば、一枚の絵の前に立つ。でも、ただ単に見ている、というのではない。他の人からすれば、絵を鑑賞しているだけのようであっても、当人は、思いも寄らない実にダイナミックな変化を味わっている。描かれた人物が動きだし、その声が鼓膜を揺らす。風景を通り抜ける風が頬に当たり、地面からにおいが立ち上ってくる。片隅の小さな一点に焦点が絞られ、そこに吸い寄せられ、気づくと自分自身が絵の中に含まれている。もはや額縁は消え、時間も超越している。画家の筆遣いと自らの呼吸が重なり合ってゆく。

つまり、感動とは身体的な体験なのだ。頭でこしらえた理屈に留まっていたのでは、先へ進めない。理屈の壁に体当たりし、かつて味わったことのない空気を吸い、時に痛みを感じたり、うっとり夢見心地になったりしながら、画家が作り出した世界に身を投じる。頭より肉体の方がずっと感受性豊かだ。

美術館の静寂に独特の趣があるのは、鑑賞する人々の肉体が目には見えない形でうごめいているからに違いない。その証拠に、美術館からの帰り道には、どこことなく疲労を感じる。重苦しく、ぐったりするわけではなく、細胞が躍動するような、心地よい疲労だ。

小説もそうでありたいと願う。本は紙に印刷された文字の連なりでしかない。だからこそ、それを開いた時、言葉の意味を理解したり、ス

トーリーを追ったり、伏線をチェックしたりするだけではつまらない。言葉の間に埋もれた空白に、身を沈めて初めて、本物の読書がはじまる。書かれてないところに、自分だけの言葉を発見する時、肉体が小説世界に取り込まれていると気づく。

作家の立場からすれば、言葉にできない奥行を持った行間に、読者をひととき閉じ込め、登場人物たちと一緒に唯一無二の旅をしてもらいたい。比喩ではなく、まさに肉体を小説の中に引きずり込みたい。感情や心、といったあやふやなものではなく、肉体を通した確かな実感によって、小説を体験してもらいたい。そんな小説が書けたら、どんなにいいだろう。私はいまだにあきらめもせず、そう願っている。

さて、初めて岡山を訪れた編集者は私の勧めに忠実に従ってくれた。「凄いですね。ギリシャ神殿かと思いましたよ。現代の画家や、民芸の分野も充実していて、驚きました」

だから言ったとおりでしょう。私は満足げにうなずいたのだった。

小川洋子 OGAWA Yoko

小説家。1962年岡山県生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1988年「揚羽蝶が壊れる時」でデビュー、1991年「妊娠カレンダー」で芥川賞を受賞。『博士の愛した数式』『薬指の標本』など、静謐で幻想的な作風で知られ、海外でも高く評価されている。2000年第1回福武文化賞受賞。



岡田智美さん(左)と松浦理事長

活動を見守ってくれている心強さ……岡田

次につながるバックアップを……松浦

【対談】

岡田智美 × 松浦俊明

山陽新聞社文化部長

福武教育文化振興財団理事長

福武教育文化振興財団は、設立から40年の間に、時代の変化とともに少しずつ変化を遂げてきました。財団の助成や表彰事業によって、これまで岡山でどんなものがはぐくまれ、そしてこれから何が生まれていくのでしょうか。2023年度より助成の審査員を務め、また山陽新聞の文化部記者として長年、岡山をひろく取材されてきた岡田智美さんをお迎えして、財団と岡山の魅力や可能性について語り合いました。

文・黒部麻子／写真・久延将太(ヒラガナ企画)

県内の教育・文化活動を支え、
つなげ、より豊かにするために

岡田 この度は40周年、誠におめでとうございます。福武教育文化振興財団というのは、文化・教育面で何か活動をしようという方々を支えてくれる、岡山にとってなくてはならない財団だと思います。

松浦 ありがとうございます。

岡田 以前と比べ、助成先や表彰先も少し変化しているように思います。2025年度の福武教育文化賞の受賞者を見ても、作家の天川栄人さんをはじめ、今まさに旬な方々ですね。以前は長く活躍してきた方の功績を顕彰するというような形でしたが、今まさに走っていらっしゃる方、これからさらに活躍される方に賞を贈られているんだと感じます。そのあたり、松浦理事長のお考えがあるのでしょうか。

松浦 そうですね。2017年に理事長になった時に、財団の事業について、職員や理事、評議員など、皆さんからお話を聞きました。表彰事業については、やはりある程度実績を積まれた方を表彰して、皆さんが目指すような賞にしたいとのことでした。表彰がある意味ゴールといえるのか、そこを目標にぜひ頑張ってくださいねという形だったと思います。奨励賞もあったのですが、それが今の賞に近いかもしれません。

その後検討を進め、今は表彰後のサポートとしてフォローアップ助成をしています。受賞者の方々の素晴らしい活動を、県内により広めるための助成です。「こうした方がおもしろいかもね」とか「もっとこうしたら、皆さんに知ってもらえるよね」というところを考えながら、徐々に財団のあり方も変化してきています。

岡田 私は助成の審査委員をさせていただいています。新聞社で長年いろんな取材をしているにもかかわらず、「こんな活動をしている人がいたんだ!」という驚きが、申請書を読ませていただくたびにあるんです。まだまだ岡山には可能性があるし、いろんな方がいらっしゃる。審査に関わらせていただくことで、私自身とても勉強になっています。

福武の助成がほんと決定的に違うと思うのは、成果報告会をすごく丁寧にされているところだと思います。アットホームで、岡山の人たちを結ぶ場になっていると感じます。毎年、報告会に参加させていただいていますが、皆さん、とても明るいですよね。さらに、助成先の活動の現場に、和田さんをはじめ財団スタッフの皆さんが足を運んでいらっしゃる。活動する人たちにとって、自分たちの活動を見守ってくれていると直に感じる事ができるというのは、すごく心強いのではないのでしょうか。

松浦 私が理事長になった時に、そうした財団の土台はある程度できていました。

本当に積み上げだなと思います。財団は黒子のような役割です。皆さんの活動がより豊かなものになるために、いかにバックアップするか。次につながるようにするにはどうしたらいいか。そこをいつも考えています。

岡山の実業家に 受け継がれてきたマインド

岡田 松浦理事長は、お育ちになったのは名古屋ですね。横浜の大学に入られ、東京でIT系の企業にお勤めをされていたのですが、財団のお仕事をされるようになって岡山と深く関わるようになり、岡山はどんなふうに見えましたか？ 岡山の文化や教育について、「ここはいいけど、ここはちょっと」といった部分をお感じになることはありますか？

松浦 岡山は、噂に聞いていた通り、天候がよくて食べ物も美味しくて。来た当初は、車の運転マナーについてはちょっと驚きましたが（苦笑）、それ以外は、マイナスに感じるということというのは全くなか

ったです。岡山に来て、文化活動が多いなと思いました。この財団にいるからかもしれないですが、いろんな文化活動があちこちにあって、チラシもたくさんある。東京より多い気がします。

岡田 確かに、岡山は多いと思います。岡山県博物館協議会といって、県内の博物館や美術館などの施設が加盟している協議会があるのですが、今、88もの加盟館があるんです。一つの県の中にこれだけあるというのは、地方の中ではかなり多いのではないのでしょうか。

中でも、私立の施設が多い。それはやはり、日本で最初の西洋近代美術館として、実業家大原孫三郎さんが尽力されて大原美術館が倉敷で生まれたという背景もあるのではないかと思います。岡山では事業で成功された方が文化活動に熱心であることが多いですね。ベネッセグループはもちろんのこと、両備グループの夢二郷土美術館もそうですし、タカヤグループは華鶴大塚美術館を持たれています。大原さんをはじめ、やはり岡山の経済人には、事業で成功したら地域の文化のた

めに何かしないといけないというマインドが受け継がれているのだと思います。

松浦 そうですね。文化施設は多いですね。それと、小さなグループで、小規模な活動をされている方が結構多いなと思います。近所の人と一緒にとか、数人のグループでとか。東京の方だと、もっと規模が大きいか、あるいは個人単位の活動が多いんじゃないかな。統計をとっているわけではないのですが。

岡田 それはやはり、財団が40年にわたって助成を続けてこられたからだだと思います。地域のお祭りをちょっとリニューアルするために、助成をもらってやらすごく楽しい会ができたというような報告がありますよね。そういう、小さな活動も取り上げて応援してください。それがあるからこそ、岡山に文化活動が根付いてきているんじゃないかなと思います。

松浦 それはありがたいですね。

「アートって楽しい！」 という体験を子どもたちに

岡田 近年、新しい取り組みも始まっていますね。ハロー！ミュージアム助成、とても素敵です。

松浦 岡山は文化的施設が多いのですが、では文化的なイベントに県民がどれくらい参加しているのかというと、決して多くないという現状があります。瀬戸内国際芸術祭にしても、岡山県と香川県の参加者比率は、2対5くらいだったと思います。

岡田 それは意外です。

松浦 和田さんと金沢の美術館に視察に行ったのですが、金沢では市民が日頃から美術館を訪れる文化ができていて、アートに触れることが日常の一部になっていました。岡山でも、美術館って気楽に楽しめるんだよという経験を、子どものうちにしてほしい。そうすれば、アートに対する意識のハードルが下がるんじゃないかなというのが、ハロー！ミュージアム助成を始めたきっかけです。

岡田 始められて、反応はいかがですか？

松浦 対話型鑑賞を採り入れていますが大変好評です。見て終わりではなく、作品に対する自分なりの感想や気づきなど、



松浦俊明 MATSUJIMA Toshiaki

1981年名古屋市生まれ。横浜国立大学工学部卒。大手IT企業勤務を経て、福武教育文化振興財団参与、副理事長を経て、2017年から理事長。

岡田智美 OKADA Tomomi

広島市、岡山市で育つ。岡山大学文学部（美学美術史専攻）卒。1994年山陽新聞社入社、主に地域とアートをテーマに取材している。2023年より文化部長。



自分発信で考えるプログラムにできたことが、非常に良かったなと思います。先生たちからも「普段の授業では全然発表せずに縮まっているような子が、この時間はいきいきと話すんです」というようなお話も教えていただきました。子どもたちには「楽しかった!」という思いを持って帰ってもらいたいですね。かっこいいことを言わなくていい。他の人と違う意見でもいい。自由さを大事にしています。

岡田 対話型だと、自分の思ったことをボンボン言える。「自分はこう思うよ」という広がりがありますよね。

松浦 教育はやはり、まずインプットがあって、その後に自分でアウトプットして初めて成り立ちます。事後学習まで見た時に、これはいい循環ができています。授業だなと思いました。私が見た事後学習は「自分だけの花」を描くというものでした。自由に花を描いて、発表する。なぜこれを描いたかとか、この表現は美術館で見たのでちょっと真似したかったとか、こう考えてこういう構図にしたとか、子どもならでは意見を、みんな臆することなくどんどん発言していて、おもしろかったです。年齢が上がってくると、どうしても少しブレーキがかかってくると思うので、実施する学年も非常に重要だと思いますね。

岡田 小学校3、4年生というのが、いいですね。自分をよく見せたいとか、恥ず



かしさとかより、おもしろいものに素直に飛びついて吸収できる年齢なのかなと思います。

アートを見ることは、普段見慣れないものに触れること。友達の意見を聞いて、自分がいいと思わなかったものにも、また違う美しさがあることに気づき、その価値を認め合うことができる、その寛容さが文化なんだと思います。子どもの頃にアートに出会うというのは、そういう柔らかい心を育むことではないでしょうか。すごく夢のある事業ですね。

松浦 さらに最近では、若い方への支援をもっと手厚くしたいと考え、中高生向けの「瀬戸内スタディツアー」や、「高校生・大学生アクション助成」という伴走型の助成も始めています。

岡田 若い人が地域を知ること、大人になった時にその地域で暮らしたい、戻ってきたいという気持ちが強くなるそうです。今、地方は若い人が流出していく問題もありますから、小学生から大学生まで、いろんな地域活動をすることが、めぐりめぐって地域の未来への投資につな

がるのだと思います。

変わりゆく時代の中から、 新たな息吹を

岡田 財団の今後について、松浦理事長のお考えを伺わせてください。

松浦 私が今、一番気になっていることは、岡山には素晴らしい文化活動がたくさんあるけれど、そうした情報を知る機会すらないという方もまだまだ多くいらっしゃるということです。そういう方々にも浸透するような、情報の発信の仕方や活動の広げ方を考えていきたいですね。県民全体がアートや文化に親しみ、かつ自らも何らかの形で関わっているという、そんな岡山をめざしたい。教育の場面でも格差が問題になっていますが、知る機会や体験する機会を、今まで知らなかった人に届けることができ、関わる人が増えれば、大きな変化になると思いますし、やりがいも大きいと思います。最後に私からもお伺いしたいのですが、岡田さんから見た、福武らしさってどんな



ところでしょうか？

岡田 やはりフレンドリーさ、近さでしょうか。あと、フラットな感じがしますよね。背中を押して応援してくれて、同じところで見てくださいって、一緒に楽しんでくださる。そんなイメージがあります。

松浦 確かに。岡山でおもしろい活動が増えれば、自分たちが楽しい。そんな思いもありますね。

岡田 今、人口減少によって、地域の文化活動が縮小してきています。残念ですが、ものづくりにしても、伝統行事にしても、担い手不足により、従来のような活動が難しくなっているという話をあちこちで耳にします。

だけど、その中でも新しい芽というか、何かやりたいという人はちゃんと出てきているんだというのを、財団の報告会に行くと感じるができるんです。ちょっと見えてきた芽に、助成という名の水を与えて、育っていったり、また新しい芽が出てきたり。そうした積み重ねによって、新しいムーブメントが出てくるのかもしれない。今はきっと過渡期で、これからまたおもしろくなっていくんじゃないでしょうか。ぜひ今後も応援していただければと、地域で仕事をする者として願っております。

松浦 ありがとうございます。

(2025年10月24日山陽新聞本社20階談話室で)

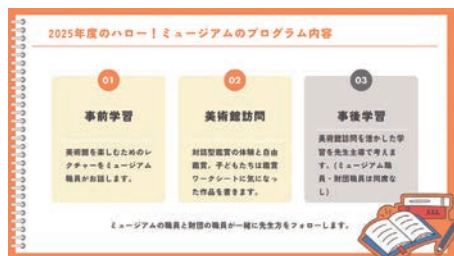
本物にふれ、わくわく する体験を子どもたちに

ハロー！ミュージアム助成は、「岡山県の小学生全員が卒業するまでに一度は美術館を訪れ、本物のアートに出会い、わくわくする体験をしてもらいたい」という思いからスタートしました。わくわくする体験を通して面白さや不思議さを見つけ、考えたり表現したりすることによって、学びが「自分のもの」になるのではないのでしょうか。財団では子どもたちの「楽しかった」のお手伝いができればと思っています。

プログラム

ただ単なる美術鑑賞で終わらせるのではなく、事前学習で美術館を楽しむためのレクチャーを経て、美術館では一人ひとりが作品と向き合います。事後学習では美術館訪問を活かした学習を先生主導で考え授業を行います。

自らの感性を刺激して新しい考えを創るアートの力を教育にいかしていければと期待しています。



※対象は、岡山県内の小学3年生または4年生です。美術館までのバス代・入館料・講師謝金交通費を助成しています。

実績

募集エリア	美作エリア	美作・備中 エリア(岡山市・倉敷市以外)	美作・備中・ 備前エリア(岡山市・倉敷市以外)
年度	2023	2024	2025
実施件数	6	14	24
参加児童数	153	404	541

児童の声

- ・大原美術館には、たくさんの絵があってびっくりしたし、大きい絵があってかくのどのくらいかかったのかな？ときになったし、リアルな絵や「絵」って感じがのやつもあって、感動した。
- ・僕が一番不思議だと思ったのは近くで見ると、普通の絵だけでも遠くから見ると立体的に見えるものがあって僕はぜったいにまねできないと思いました。
- ・ほんとにえのなかにはいったかんじがしました。
- ・最初はお弁当以外どうせ面白くないと思ったけど、絵を集中してみてもいいかな場面か、考えてみたら面白かった。
- ・絵は白黒でもきれいだなと思うことにびっくりした。
- ・25年もかかった絵があったのが驚いた。
- ・友達と「これこんなことがあるからこうじゃないとか、こう思っているんじゃない。」ってたくさんの絵がこんなことを思っているかと予想しながら話しました。
- ・対話型鑑賞をするときに同じ班の人が自分の意見をはっきりと言っていて私は「なるほど」と思いました。
- ・芸術は下手上手ないと思った。
- ・遠くからだと一色に見えるけど近くで見るといろんな色がある絵があったのがおどろいた。

先生の声

- ・美術館に初めて入る児童があり、美しい絵を実際に見る良い機会になった。児童が絵を自由に見て、それぞれの感じたことを言葉にして友達と交流する経験ができた。
- ・ただ、美術館に行くだけではなくて、事前学習から事後活動までの内容だったのが、とてもよかったです。目的をもって美術館にいったこと、それを次に生かしたこと、子どもたちだけではなくて、教員のわたしたちにとっても、貴重な経験になりました。
- ・子どもの考えや視点がおもしろく、とても勉強になりました。
- ・県北に住んでいることや保護者の方の興味などから、大きな美術館になじみのない児童が多かったが、対話型鑑賞の仕方を教えていただき、実際に美術館で本物に触れることができた事が大きな収穫でした。

- ・児童にとって、大変貴重な体験となりました。心が動く、ということを目の当たりにしたように思います。また、そのような経験をした子どもたちは、自発的に表現し、生き生きと活動するのだと実感しました。私たちは、少しでも多く今回のように心の動く経験を、児童にさせたいと改めて感じました。

(参加校へのアンケートより)



有識者からのコメント

新たな見方、 新しい考え方をはぐくむ機会に

IPU 環太平洋大学 次世代教育学部
教授 村上尚徳

これからの社会を生きる子どもたちには、情報化やグローバル化が進展する変化の激しい社会の中で、感性を豊かに働かせて、課題を発見・解決し、新たな価値を創造していく力が求められています。こうした中で、「ハロー！ミュージアム」プロジェクトでは、対話型鑑賞を通して、子どもたちが感性を豊かに働かせながら、これまでの常識にとらわれない柔軟な見方や考え方に気付き、作品に対する自分なりの意味や価値をつくり出していく力をはぐくむことが重視されています。

このプロジェクトでは、次のような教育的な成果が期待されます。

- ・美術館という特別な場所や学芸員とい

う専門家との触れ合いの中で、いつもと違った新鮮な気持ちになり、学習への期待や意欲が高まります。

- ・作品の大きさや質感なども含めて本物の作品を直接見ることで発見があり、よさや美しさを実感することができます。
- ・子どもたちが自分の気付いたことや考えを友達や先生と語り合う中で、主体的・対話的で深い学びが行われ、自分一人では気付かない新たな見方や考え方に気付くことができます。

- ・友達に自分の考えを説明することで、情報を取り出す力、考えを整理する力、分かりやすく話を構成して伝える力などの表現力が育成されます。

このように本プロジェクトは、美術鑑賞を通して子どもたちに感性や創造性、豊かな情操をはぐくむとともに、今日的な教育課題にも応える取り組みにもなっています。

学生が主体となって 地域を良くするアクションを起こす

高校生・大学生アクション助成は、みんなの「探究学習」をさらにパワーアップさせるための、活動資金をサポートする助成プログラムです。この助成金は高校生または大学生だけが応募できます。自分たちの力で申請から報告までチャレンジし、実際に地域の中で行動に移していく活動を応援しています。

プログラム

探究学習とは、生徒自身が「問い」を立て、その解決のために情報を集め、分析し、他者と協力しながら答えを探究していく学習活動です。

学校の授業（探究学習）では、課題を見つけて分析し、まとめるところまでが一般的です。しかし、この助成金が応援したいのは「その先」です。分析して終わるのではなく、実際に地域の中でアクションを起こし、社会を変えようとする学生たちの実践を支えます。

例えば、地域の人たちと協力して課題を解決したり、新しいイベントを企画したりする活動など。

実際に地域に出て活動することで、教科書だけでは学べない、もっと深い学びにつながることを期待しています。



実績

	年度	件数	対象	伴走支援
1	2021	6	高校生	
2	2022	6	高校生	
3	2023	12	高校生・大学生	NPO 法人だっぴ
4	2024	10	高校生・大学生	NPO 法人だっぴ
5	2025	15	高校生・大学生	NPO 法人だっぴ

NPO 法人だっぴ

2024年度の報告書より伴走支援内容

コンセプト

【とにかくやってみる！】

高校生や大学生のチャレンジを応援する助成制度として、「とにかくやってみる」にたどり着くまでをスタッフが伴走・サポートする。

目標

① チャレンジの具現化チームにとっても社会にとってもよりよいチャレンジになるよう、次の1歩となる ToDo や目標の具体化をサポートする。

② 高校生・大学生の成長自分たちの成長を実感できるようフレクシオンを通して、チャレンジのメタ認知を行う。

伴走支援内容

・各チームにオンラインでのメンタリング、キックオフミーティング・最終報告でのファシリテーター、助成対象者の活動に参加、リソースの紹介など

有識者コメント

未来の岡山をつくるアクション助成

前岡山県教育庁学校教育推進監
室貴由輝

グローバル化や情報化、AI技術の進展など、社会が大きく変化する中で、答えのない課題に向き合う力が求められています。こうした時代に対応するため、高校では2022年度から「総合的な探究の時間」が導入され、生徒が自ら課題を設定し、情報収集・分析・表現を通して探究的な学びを深めています。社会課題を自分事として捉え、解決に向けて行動する高校生も増えています。

また、大学でも地域との連携が重視され、地域での活動を通じて学生が問題発見・解決能力を育む機会が広がっています。こうした流れの中で、2021年に「高校生・大学生アクション助成」が創設されました。これは、岡山県内で教育・文

化・地域資源を生かした活動に取り組む高校生や大学生を支援する制度です。申請から報告までを学生自身が行うことで、主体性や計画性、社会的責任感を養うことができます。さらに、伴走支援を受けながら活動を進めることで、学びの継続と深化が図られます。

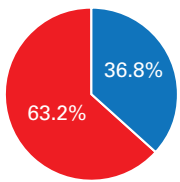
助成を受けた学生たちは、地域課題の解決や文化・教育の発展など、実社会を舞台に探究活動を展開しています。資金計画の立案や報告書作成といった一連の経験は、学校の学びという枠を超えた「社会的実践」となり、今、社会で求められている実践的な力を身に付けています。「探究的な学び」を学校内での活動にとどめることなく、地域社会と結びつけ、持続的な学びへと発展させる大きな役割を果たしているのです。

若い世代が地域で挑戦し、行動する。その一歩一歩が、未来の岡山を支える新しい学びと人づくりへとつながっています。

2024年度の報告書より活動者本人の自己評価

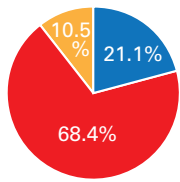
【実践力】

上手くいったことも上手くいかなかったことも含めて、十分アクションできた



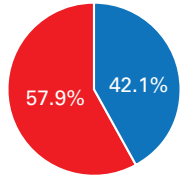
【社会性】

自分たちの活動を通して誰かの役に立つことができた



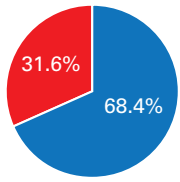
【創造性】

自分たちのアイデアや発想を実際に具現化（かたちに）することができた



【協働性】

チームメンバーや大人たちと協力して活動することができた



●とてもそう思う ●まあそう思う ●あまりそう思わない ●全くそう思わない（回答19件）

瀬戸内の島々をフィールドに 五感で受け止める体験

瀬戸内スタディツアーは、備讃瀬戸の島を巡って、アートに親しみ、アートを通して地域を知り、アートから自分の考えを導く、中学生・高校生対象の体験学習ツアーです。このプログラムが大切にしているのは、教室では味わえない体験です。島という生きたフィールドで、アートや風土に触れながら、自分なりの新しい価値を生み出す機会になることを期待しています。

プログラム（2024年度）

瀬戸内国際芸術祭を支えるボランティアサポーター「こえび隊」のガイドのもと、島を巡ります。島のお年寄りとの交流やアート作品の対話型鑑賞を通じて、地域の歴史・自然・文化を深く体感する日帰りプログラム。

瀬戸内国際芸術祭ボランティア
サポーターこえび隊



瀬戸内スタディツアー2024

「島とアートを巡る冒険の3日間」

取材・レポート：松原龍之

犬島編



直島編



豊島編



参加者アンケート

- ・アートにたくさん触れられて凄く楽しかったし、今までなかった感情が湧いてきた！
- ・自分の知識を増やすとともに、これから必要になる自分自身の考え方について考えたいことのひとつとして取り扱った。
- ・今までアートの見方とかがよく分からなかったけど、まず自分でどんな作品か考えてみるのが大切だなと気づけた。
- ・豊島の歴史を知り、自分にも何かできることはないかと思った。
- ・島ならではの特徴などを知ることができた！また友達も沢山でき、嬉しかった！
- ・対話型鑑賞では自分とは違った見方があったこと。その結果、新しい考え方を身につけることができた。



1
INUJIMA

犬島コース

循環型社会を体験する旅

7.29 定員：20名

犬島に残る銅製鋳所の遺構を保存・再生した犬島精錬所美術館や暮らしの植物園でのワークショップを通して循環を体験する旅

2
NAOSHIMA

直島コース

内生する旅

8.8 定員：20名

ベネッセミュージアムでの作品鑑賞や家プロジェクトを散策しながら自己理解を深め多様性に気づく体験の旅

3
TESHIMA

豊島コース

島の光と影をみる旅

8.22 定員：20名

瀬戸内海を望む豊島唐櫃の小高い丘に建設された豊島美術館と産廃処分地の見学を巡り豊島の今と昔を体験する旅

介護と演劇の融合： 「仮説」から「確信」へ

演出家

菅原直樹さん

SUGAWARA Naoki

聞き手：山川隆之（吉備人出版）、和田広子（財団）
写真：久延将大（ヒラガナ企画）

「老人介護の現場に演劇の知恵を、演劇の現場に老人介護の深みを」という理念を掲げ、OiBokkeShiを立ち上げたのが2014年。財団の助成を受けて間もない頃は、介護と演劇の融合はまだ明確なかたちのみえない「仮説」だった。しかし、多くの仲間と共に作品を次々に発表。芸術選奨をはじめ当財団の第1回教育文化賞受賞などその後の目覚ましい活動は、エリアを越え舞台芸術の新しい世界を築いていった。「仮説」が「確信」へと変わってきた今を伺った。

介護と演劇の融合を確信

——この間の変化や活動の広がりについて、お聞かせください。

菅原 活動は今（2025年）で11年目になりますが、介護と演劇は間違いなく「融合するもんだ」と確信しています。

——確信に至った柱はどのような点にあるの

でしょうか？

菅原 主に二つの柱があります。一つは、「介護者は俳優になった方がいい」という実感に基づいて、介護現場の職員の方々に演劇ワークショップを体験していただいていること。そしてもう一つは、「高齢者ほどいい俳優はいない」という実感から、高齢者と一緒に芝居を作ってきたことです。実際に看板俳優の岡田忠雄さんは、活動開始時は88歳でしたが、今も現

役で99歳です。演劇の知恵は介護の現場に生かせると感じており、この実感は今も変わっていません。

——介護現場の職員の方々の反応はいかがでしたか？

菅原 ベテランの方々や、介護の仕事を好きでやっている方々は、この新しい考え方に強く共感して下さいます。介護と演劇を結びつけることで、介護をする中で感じている楽しさなどを、外部の方に分かりやすく伝えたり、ご自身の普段の介護を整理するきっかけになったりしたのではないかと考えています。

——一方、家族介護者の方々の反応は異なる側面もあると。

菅原 反応は色々あります。共感して下さる方もいる一方で、家族に対しては「難しい」という声もあります。介護の仕事は仕事で認知症の方と関わりますが、自宅の場合は24時間終わりがなかったり、親子や夫婦といった関係性なので、親しき仲にも遠慮がなくなり、つい強く言ってしまうりする難しさがあるのでしょうか。また、親ができていた頃の姿を知っているため、なかなか受け入れるのが難しいということもあります。

社会的評価と 急速な活動の展開

——活動を始めて以降、2019年に福武教育文化賞第1回を受賞され、文化庁の芸術選奨

も受賞されました。こうした社会的な評価は、どのような影響をもたらしましたか？

菅原 予想はしていませんでしたが、活動は思いのほか急速に広がりました。メディアで取り上げていただいたり、賞をいただいたりしたことで、活動をより広く展開することが可能になりました。——地域での活動がしやすくなった点は大きいですね。

菅原 圧倒的にしやすくなりました。僕がやっている活動は劇場だけではなく、介護現場や地域の方々を対象としています。今まで芸術文化に触れる機会が少なかった方々が、介護を入り口として演劇に関心を持ってくさる。新聞やテレビで取り上げられたり、賞をいただいたりしたことで、活動が非常にしやすくなりました。——活動の経済的な基盤も、こうした公的な評価が影響しているのでしょうか？

菅原 そうですね、活動が認められているため、助成金や公共劇場とのお仕事を通じて、生活の基盤が成り立っています。なかでも三重県では、三重県文化会館と



の連携で毎年作品制作を行っています。公共劇場との連携は、私たちの活動を経済的にも支える上で非常にありがたいことです。

——活動の場は県内だけでなく、他府県、さらには海外にまで広がっています。

菅原 2022年にイギリスで活動し、その後、台湾にも行きました。台湾は超高齢社会の目前という課題を抱えており、芸術文化に何ができるかという観点から注目されています。2022年にオンライン講演会を行い、ワークショップを経て、2025年には現地の国家両庁院からの依頼により、現地の人と一緒に徘徊演劇を上演しました。

公共劇場との連携と インクルーシブな演劇への進化

——岡山県内では、新しくできた岡山市の芸術創造劇場「ハレノワ」が活動の一つの核になっていますね。



おかやまインクルーシブフェスティバル「人生相談天国」

菅原 ハレノワの存在は大きいです。OiBokkeShiは小規模な劇団で、広報や展開が難しい側面があったのですが、ハレノワと組むことで、活動が人々に届くようになりました。特に「岡山の老いのプレーパーク」の展開を大きく支えてくれています。

——今後の方向性として、高齢者だけでなく参加者の多様化が進んでいると。

菅原 参加メンバーは、高齢者に限らず、50代の方、障害のある方、若い人、そして専門職へと広がっています。今後は「おかやまインクルーシブフェスティバル」での作品制作など、演劇に触れたことのない多様な方々を巻き込みたいと考えています。

——模索されている「新しい演劇」とは、具体的にどのようなものでしょうか？

菅原 演劇は敷居が高く感じられがちですが、もっと自由に、面白い形のものを作れるはずだと考えています。例えば、セリフ覚えのいらない演劇や、生活者の人生を舞台上で披露するだけで成立するような演劇です。今までの演劇のやり方にとらわれず、多様な方々に参加してもらうことで、新しい形の演劇を生み出したと思っています。

——オンラインでのワークショップも展開されているそうですね。

菅原 2か月に1回、Zoomで演劇ワークショップを行っています。演劇への敷居

を低くすることができ、わずかな稽古時間でも、見応えのある完成度の高い芝居ができあがります。これはオンラインならではの面白い展開だと感じています。

今後の展望と 活動の継続の秘訣

——活動を10年継続し、新たな局面を迎える中で、今後どのような展開を目指されていますか？

菅原 基本は今の活動をベースに、さらに多様な方々と出会い、作品を作っていくことです。介護と演劇の可能性は非常にたくさんあり、まだ実現できていないことが多いので、今後も挑戦し続けたいです。

——地域活動の展望はいかがでしょう。

菅原 倉敷市真備町では、介護関係者が主体となって防災と演劇を組み合わせた活動を5年近く続けています。この活動を作品作りにも発展させたいと考えています。また、奈義町でも横仙歌舞伎や現代美術館と何かコラボレーションもできたらいいですね。

——演劇と福祉・医療・介護の繋がりを持つ取り組みは、ここ10年ほどで増えてきている傾向があるそうですね。

菅原 はい。自身の介護経験を作品にする俳優がいたり、デイサービスでアーティストが滞在制作をしたりする企画が増えています。そうした方々とも繋がりを



持てたらいいなと思っています。

——最後に、この活動を長く続けていく上で、最も大切にされていることは何でしょうか？

菅原 やはり、「楽しい」ということを大切にしています。もちろん良い作品を作るには努力が必要ですが、みんなが楽しんで作っている状態で、良い作品ができたならば、お客さんはその熱量を敏感に感じ取ってくれます。台湾での共同制作でも、出演者がお互いを尊重し合う良い関係が自然にできあがりました。プロセスを大切に、みんなが楽しんで作るという姿勢が、良い作品を生み出すのだと確信しています。(2025年10月15日・奈義町にて)

菅原直樹 SUGAWARA Naoki

劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。1983年栃木県宇都宮生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒。「老いと演劇」OiBokkeShi主宰。四国学院大学非常勤講師、美作大学非常勤講師。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2018年度(第69回)芸術選奨文部科学大臣賞新人賞(芸術振興部門)受賞。2019年度(第1回)福武教育文化賞受賞。2024度(第25回)岡山芸術文化賞グランプリ受賞。

短歌創作の根底にあるのは、 10代を過ごした故郷 「魂は岡山にある」

歌人

大森静佳さん

OMORI Shizuka

聞き手：山川隆之(吉備人出版)、和田広子(財団)
写真：久延将大(ヒラガナ企画)

福武教育文化賞(2023年度)の受賞をきっかけに、2024年には「岡山芸術文化賞グランプリ」や「聖良寛文学賞」を受賞するなど、自身、自分を取り巻く注目度が上がったと実感している。短歌界の枠を超えて活躍が期待されている大森静佳さんの創作の原点と今後を伺った。

短歌創作の源流と 作家としての基礎

——まず短歌を始められた高校時代を振り返っていただけますか。

大森 短歌を作り始めたのが高校時代ですが、その前から詩や短歌、特に五七五七七のリズムにすごく興味は持っていました。小学生の頃に百人一首がとても好きで、意味よりも言葉の響きやリズムで覚えて楽しんでいました。高校時代に国

語の教科書で、近代短歌というよりは戦後の、塚本邦雄とか葛原妙子らの作品を見て、「すごいカッコいいな」と思って、作りたいと感じたのがきっかけです。そこから新聞に投稿し始めました。

——岡山朝日高校の文芸部だったんですね。

大森 そうなんです。今はもっとたくさんいますが、当時は部員が2人か3人しかなくて。そんなに熱心に活動はしてなかったんです。

——高校生文芸道場のワークショップを長く指導されているなど、地元での後進の指導などに

貢献されています。福武の受賞以降、地元岡山の注目度がグッと上がってきたように思います。

大森 本当にありがたいなと思ってますし、そこから何か動き始めました。岡山でワークショップさせていただくようになり、かなりの頻度で岡山に帰っていて、短歌とか文芸をやる人が参加できる場を作っていきたいという気持ちがあったんです。それを自分から始めるきっかけとして、福武の賞をいただけたことが大きかったなと思います。

内面には吉備高松の 古墳のイメージが

——ご自身の中で地元でというのは何か理由があったんでしょうか？

大森 県外へ出てからも岡山という土地が好きで、自分の中で大事だということと、自分が中学生、高校生の頃に、金原瑞人さんのトークイベントや、小川洋子さん、あさのあつこさんの講演会に行き、岡山で良い作家の方に触れた経験が大きかったです。なので、10代の子たちに、何かそうしたものを返していけるものがあればやっていきたいなっていう気持ちがありました。

——(和田) 10代で過ごした岡山が、今の
大森さんの作家としての基礎みたいなものを
作ったと考えていいんでしょうか？

大森 そうだと自分では思っています。なんかこう結構よく「魂は岡山にある」

って言われるんです。自分の内面には常に、吉備津高松の古墳のイメージが存在しています。

——(和田) その古墳が創作の「源流」になっていると？

大森 はい。古墳とか、ちょっと暗闇のある山や自然といったイメージが、短歌を作る時の源流になっているような気がします。短歌にも古墳とか石室(埋葬施設)がよく詠み込まれていて、京都の様子は全然出てこないんです。

——(和田) 特に興味がある古墳というのは、どのようなものなのでしょうか？

大森 (天皇陵のような) 中に入れない古墳には全く興味がなく、中に入ることができる横穴式の古墳が好きなんです。幼い頃から裏山にあった名前もないような横穴式古墳や造山古墳が遊び場のような感じでした。死者を埋葬する四角い闇の空間に一旦入って、そこから入り口の四角い枠を通して外の光を見た時に、外の世界が遠く感じる、あの感覚が好きなんです。それが「ちょっと生まれ変わるみたい」な感覚につながります。

——それが原風景なのですね。受賞されて以降、作品だとか、生活だとか、生き方というか、そういうことは出てくるものですか？

大森 今岡山で3か月に1回、自分で主催して「白桃歌会」という、誰でも参加できる短歌の会をやっているのですが、それまで内向的だった自分の短歌の世界が、急に開けたというか、人と繋がっていつ

たなと感じています。この岡山でのご縁が大きいですね。

——小説なども書かれていた中で、短歌を創作の主軸にされたのはなぜでしょうか？

大森 小説も高校生の時は書いていたし、今も短い文章やエッセイなどは書いています。ただ、自分との「相性」みたいなもの考えると、短歌だな、というのを結構早い時点で思いました。

——短歌のどのような点に相性の良さを感じたのでしょうか？

大森 やっぱり短歌は「我の詩」なんでしょうね。あくまでも本当に自分が今関心を持っていることとか興味のあることから歌っていくという点にじっくりきます。

——「高校生文芸道場」などで、高校生に短歌の面白さとかを伝える際、どのようなことを意識されていますか？

大森 普段、家族や友達と話す時にはわざわざ口に出すほどのことじゃなかったり、言いつらいことが、短歌の五七五七七の定型があることで、そこに出していいけるという点です。特に10代の頃だと、



自分で持っていたはずの気持ちだけど、書いておかないと消えていってしまうかもしれないような、そういうものを、定型という「宛先」に書き止められるのは、後から振り返ってもいいことだと感じるんですね。

——その五七五七七というリズムが重要なですね。

大森 リズムの方が、自分の考えているはずの、自分でも意識していないような深くに沈んでいることを、引き出してきてくれるようなところがあるんです。ほとんど制約だと思ったことがないんです。

短歌や読書で「時間の流れをゆっくりに」

——高校生など次世代へメッセージをお願いします。

大森 今はスマートフォンがあり、速い時間の流れの中で毎日生きないといけな時代だと思います。だからこそ、その時々で、休んで、本を読んでみるとか、短歌を作ってみるとか、そうすることで「時間の流れをゆっくりにできる」気がしますね。そういう時間を持っておいた方がいいと思います。

——（和田）創作のプロセスについてですが、スマートフォンは短歌作りに影響与えていると思いますか？

大森 与えていると思います。私の場合、道などを歩いて五七などの断片ができた

時は、一旦スマホにメモしておくんです。そして、1首の形にしようという時間は、必ず紙に縦書きで作り、最後にできあがったらパソコンのワードに縦書きで保存しておくという流れです。

——（和田）これから大森静佳さんの野望や展望についてお聞かせください。

大森 まずは、次の歌集に向けて良い歌ができるように頑張ることです。それから30代後半になって、もう少し腰を落착けて、歌人の研究書や評論集なんかも書きたいと思っています。また、2026年から「新潮」で「うたと夢の出会い場所」という連載を始めて、写真と短歌とか、評論と短歌といった、短歌プラス何かという組み合わせた作品を書いていきたいと思っています。

——（和田）地元岡山での活動については、いかがでしょうか？

大森 今やっている「白桃歌会」を続けていくのが目標です。白桃歌会は募集すると、前回なんかは30分で埋まってしまうほど求められていると感じているので、全然知らなかった人同士が友達になって一緒に同人誌を作るなど、新しいことが生まれるような「繋ぐ」活動を続けていきたいかなと思います。

——短歌が世代や環境の違いを超える「フック」になっている？

大森 はい、そうなんです。県外からの参加者も多く、岡山が「短歌のこと色々やってる県なんだ」と、文学フェスティ



バルなどの波もあり、県外の方たちにもイメージが広まっているのだと思います。この波に自分も乗っていきたいと思っています。

——（和田）短歌を「作る」だけでなく、他の歌人の短歌を「読み合う」、鑑賞を楽しむ機会を広げていただけたらと希望するのですが。

大森 そうですね、短歌の世界では意外とそういう機会がないので、外に広がっていくためには良いと思いますね。ただ読むということを楽しむ。そういうイベントが県外から人を呼ぶきっかけとなり、文学を楽しみ、観光などにも繋がっていけばいいのですね。

（2025年12月15日 吉備路文学館にて）

大森静佳 OMORI Shizuka

歌人。1989年岡山市生まれ。岡山朝日高校在学中に現代短歌と出会い、2010年第56回角川短歌賞、2023年『ヘクトール』で第4回塚本邦雄賞、2023年福武教育文化賞、2024年第25回岡山芸術文化賞グランプリを受賞。歌集『てのひらを燃やす』（角川書店）、『カミーユ』（書肆侃侃房）、『ヘクトール』（文藝春秋）。短歌ワークショップ「31文字の私に会う」など岡山で短歌の魅力を広める活動を行う。京都市在住。

中高生と一緒におもてなしからスタート 続けるなかで教育的意義が



たまの スチューデントガイド プログラム

聞き手:黒部麻子、和田広子(財団)
写真:久延将大(ヒラガナ企画)

瀬戸内国際芸術祭(瀬戸芸)を機に、外国人観光客が増えている。そんな中玉野市では、ボランティア団体の支援のもと、中高生が英語を使って観光客におもてなしをするスチューデントガイド事業が2017年から行われている。2021年度には福武教育文化賞を受賞。現在の活動を支える人たちに助成・受賞後の活動の様子をお聞きした。

【出席者】玉野市教育委員会:久富真吾さん、土田健太さん、頼正彩香さん
つつじの会:山崎由利さん

実績が認められ市で予算化

——瀬戸芸が始まる時に、「瀬戸内国際芸術祭たまの☆おもてなし推進委員会」が立ち上がったのが、この事業のきっかけですね。スチューデントガイド事業には、2017年から21年まで助成をさせていただきました。21

年に福武教育文化賞を受賞し、その後の3年間は受賞者フォロー助成もありました。今年度からは行政の予算がついたとお聞きしています。

久富 委員会は、官民による外部団体として2012年に発足しました。2017年から、中高生に観光客へのおもてなしを通して、地域への理解を深め、愛着をもってもらおうと、スチューデントガイド事

業がスタート。県の事業を活用し、福武さんの助成金もいただきながら、進めることとなりました。今年度からは市で予算を組み、教育委員会が主体となって運営をさせていただいています。

——民間で始まった活動に、10年ほど経って行政の予算がついたというのは珍しいケースです。素晴らしいですね。

久富 国の助成や補助も、事業の走り出しについてはサポートしますが、あとはなるべく自走してくださいねというのが国としてのスタンスでもあるんですよね。これまでの実績を踏まえ、今年度からは教育委員会で独自に進めていこうということで、予算をつけることができました。

土田 スチューデントガイド事業の教育的意義が認められてきたということと、外国語活動としてだいたい認知されるようになってきたということが大きいと思います。

——成果や実績というと、とにかく参加者の数ではかられることが多いですが、意義が認められたというのも良いですね。

土田 数も重要ですが、どちらかというとそちらの方を多くの方に評価していただけたかなと感じています。

頼正 プログラムの周知としては、各学校さんにはチラシをお送りし、市の広報誌への掲載や、SNSにも掲載しています。昨年度は年間41名の中高生が参加しました。前年もほぼ同じくらいです。

山崎 私たちつつじの会は、土日・祝日

に宇野駅・宇野港周辺で、観光客の方が困っていたらサポートし、要請があればガイドを行うといった活動をしていて、外国人の方にも対応しています。そうした中で、玉野市の社会教育課さんから、せっかく外国の方がたくさん玉野に来ていて国際交流のチャンスがあるわけだから、これをいかして学生さんたちを国際人として育てたいというお話をいただきました。会には英語で対応できる会員が6~7人いますので、そのメンバーで中高生のサポートをさせていただくことになりました。外国の方に話しかけるにはどうしたらいいか。どうやって会話を進めていくか。その辺りをサポートしながら、できればガイドもやってみるというプログラムです。

まず自分たちが 地域のことを知ること

——現場で、中高生と外国人観光客の方たち



の雰囲気はいかがですか？

山崎 中高生が「英語を勉強しています」と言ったら、快く応じてくれる方がほとんどです。普段からよく話をするような積極的な子だったら、英語が通じなくても身振り手振りでコミュニケーションをとれたりもしますが、どうしても緊張して話せない子もいますので、そういう場合は私たちが「これを言ってみたら？」というふうに促すこともあります。

——プログラムは年間、どんなスケジュールですか？

頼正 今年は瀬戸芸の開催年だったので、春会期和秋会期にガイドを行いました。当日はまず公民館に集まり、最初につつじの会さんにレクチャーしていただき、外に出て実践。宇野駅周辺で、英語で声をかけてガイドをするという流れになっています。一番話しやすいのは、直島に着くまでのフェリーの中。どこに行くのか、どこから来たのかなどを話しています。島でも、美術館や作品の周辺でガイドやインタビューをすることもあります。



——瀬戸芸がない年は？

土田 王子ヶ岳でレストランが開かれた時や、クルーズ船が寄港した時など、イベントがある時に実施しています。ポイントになるのが、ガイドをするためにまず自分たちが地域のことを知ること、そして英語に慣れることです。そこを教えてから現場に出ていくことが大事なんですよね。

——レクチャーでは、具体的にどんなことを教えているのでしょうか？

山崎 自己紹介の仕方や、声のかけ方などですね。ある程度学校で習っているとありますが、「もっとこういう言い方もあるよ」というところも伝えています。ガイドの文章は、本当に簡単な英語にしています。基本的には、間違いを恐れずにどんどん話してほしい。

土田 山崎さんが作ってくださった資料でいいなと思ったのが、リアクション一覧です。会話なので、言いっぱなしでおいではなく、向こうが言葉を返してくれた時にどんなふうにリアクションすればいいのか。「Wao!」「Great!」「Excellent!」など、いろんな返し方があるんですよね。会話が续かず困った時に、そうしたつながりの言葉がとても役に立つなと思いました。

——英語が全くできないという子もいますか？

山崎 将来、海外と関わる仕事に就きたいという子が一番多いです。子どもたち

には、「ここに参加しようと思った自分をまずは褒めてね。すごい一歩だよ」と言っています。そして子どもたちはやはり、自分の英語が相手に通じたということを、すごく喜んでくれます。教科書で習ってはいても、それが実際に生きた人間に通じるというのは、格別の喜びなんですよね。

「通じた！」って思った瞬間、頭が真っ白になっちゃう子と、うれしくてもっと話せる子と、そこがまた分かれるのですが、私たちが見極めてフォローします。一度、うれしいと感じたら、やはり皆さん伸びていきますね。

——以前「玉野ほほえみマリン大使」として活躍していた横山咲希さんは、中学生の頃からスチューデントガイドに参加していたとのこと。彼女の活躍も事業の一つの成果ではないでしょうか。

山崎 横山さんは、最初はお友達どうしで来た普通の女の子でしたが、参加しているうちに「もっとやりたい！玉野のことを世界に発信したい！」と、すごく積極的になっていきました。「スチューデントガイドのおかげでそこまで考えるようになりました」と言ってくれたのが、本当にうれしい。

——継続して活動していると、そのうち中高生だった子が社会人になって帰ってきたり、手伝ってくれたり、そういう循環も生まれます。これから楽しみです。

山崎 高校生の子が一人、つつじの会に



入ってくれて一緒に活動しています。それからスチューデントガイドに来た子が「こういう仕事に就きたいんですが、どんな時に英語を使いますか？」と尋ねられることもあります。瀬戸芸を見に来る外国の方は、やはり建築家やアーティストの方がかなりいらっしゃるの、「私もそういう仕事をやってみたい」と刺激を受ける子もいますね。そうした子たちが帰ってくるとしたら、もうあと何年か先になるかと思いますが、その手応えは今も感じているところです。

(2025年10月15日 玉野市立図書館＝玉野市にて)

たまのスチューデントガイドプログラム

玉野市に在住・在学している中高生が、国際理解・地域創生に関心を持ち、主体性やコミュニケーション能力、国際性等これからの社会で求められる力を身につけることができる機会やきっかけづくりをすることを目的として、2017年度から活動に取り組んでいる。



資料編

福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞——受賞者一覧

□賞の目的

福武哲彦教育賞は教育の研究とその実践に顕著な業績をあげている個人、又は団体を顕彰すること。谷口澄夫教育奨励賞は、岡山県の教育の向上に著しい貢献が期待される個人、又は団体を奨励することを目的とする。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体。

福武哲彦教育賞

回	年度	受賞者・団体	
1	昭和62 (1987)	荻田昭三	岡山県立高松農業高等学校 校長
		木村岩治	前津山洋学資料館 館長
		倉敷市立多津美中学校	校長 森兼正彦
2	昭和63 (1988)	三島一夫	元倉敷市教育委員会 教育長
		森嘉吉	学校法人金山学園 理事長
		岡山市立旭操小学校	校長 直木正司
3	平成1 (1989)	金重博之	(社)岡山県精神薄弱者育成会 会長
		岡山県立鳥城高等学校	代表 岡田恭雄
		倉敷市立味野中学校	校長 洲脇博
4	平成2 (1990)	橋本進	中国短期大学 理事長
		岡山県立笠岡商業高等学校	校長 高畑喜一
		倉敷市立茶屋町小学校	校長 伊藤忠
5	平成3 (1991)	小林真寿江	新見女子高等学校 校長
		原田宣祐	元岡山市立東山中学校 教諭
		岡山市立平福小学校	校長 三道一正
6	平成4 (1992)	岡山県国際理解教育研究会	代表 熊代剛士
		岡山市立岡輝中学校	校長 大前真寿男
		片山嘉女子	元岡山市教育委員会学事課 嘱託
7	平成5 (1993)	林美知子	元岡山市教育委員会指導課 嘱託
		岡山県教育工学研究協議会	会長 近藤昂
		岡山県立水島工業高等学校	校長 近藤晋一
8	平成6 (1994)	岡山県高等学校芸術文化連盟	会長 國塩輝昭
		三澤和昭	吉備高原学園高等学校 校長
		津山市教育相談センター 鶴山塾	塾長 矢野啓二
9	平成7 (1995)	青山静	岡山要約筆記クラブ 会長
		村松勲	就実高等学校 教諭
		井原後月の教育史を語る会実行委員会	実行委員長 森山上志
10	平成8 (1996)	岡山県教育振興会	会長 谷口澄夫
		岡山市立太伯小学校幼稚園PTA	会長 岡崎昌仁
		奥山桂	前岡山市教育委員会 教育長
11	平成9 (1997)	渡辺和子	(学)ノートルダム清心学園 理事長
		岡山県立岡山城東高等学校	校長 大田原啓介
		岡山県立東岡山工業高等学校	校長 清水直道

回	年度	受賞者・団体	
12	平成10 (1998)	古都の子供を育てる会	推進委員長 堀木力
		岡山県立高松農業高等学校	校長 高畑幸彦
		赤枝郁郎	赤枝皮膚科医院 院長
13	平成11 (1999)	学校間連携委員会	委員長 安東達郎
		岡山県臨床心理士会	会長 清板芳子
		就実中学校・高等学校	校長 武内眞吾
14	平成12 (2000)	原田三代治	岡山県山陽高等学校 校長
		岡山県健康の森学園	学園長 竹本博明
		岡山県立岡山東商業高等学校	校長 藤田哲輔
15	平成13 (2001)	岡山県立精研高等学校	校長 芳田泰朗
16	平成14 (2002)	高木浩朗	前井原市教育委員会 教育長
		岡山県立興陽高等学校	校長 前田栞児
17	平成15 (2003)	高旗正人	岡山大学名誉教授
		岡山県立鴨方高等学校	校長 大島俊秋
18	平成16 (2004)	伊澤秀而	倉敷市立短期大学 学長
		佃幸男	岡山県青少年総合相談センター 所長
19	平成17 (2005)	社団法人ガールスカウト日本連盟岡山県支部	支部長 小林比禮子
		岡輝中学校区地域学校協議会	会長 川上洋一
20	平成18 (2006)	濱田栄夫	山陽学園大学 教授
		アクティブライフ井原 まなびめいと	会長 河合俊道
21	平成19 (2007)	佐藤曉	岡山大学教育学部 教授
		岡山県立倉敷中央高等学校	校長 古川英巳
22	平成20 (2008)	柴田一	元就実大学 学長
		岡山県立津山商業高等学校	校長 直原研造
23	平成21 (2009)	太田健一	元山陽学園大学 教授
		竹内昌彦	岡山県立岡山盲学校 講師
24	平成22 (2010)	山本力	岡山大学大学院教育学研究科 教授
		岡山県立久世高等学校	校長 池田芳徳
25	平成23 (2011)	戸村彰孝	元岡山市教育委員会 教育長
26	平成24 (2012)	千葉喬三	学校法人就実学園 理事長
27	平成25 (2013)	佐藤元信	元金光学園中学高等学校 校長
28	平成26 (2014)	佐々木美行	倉敷市立旭丘小学校 教諭
29	平成27 (2015)	こくさいこどもフォーラム岡山 (INTERKIDS)	代表 今西通好
30	平成28 (2016)	学校法人 おかやま希望学園	理事長 黒瀬堅志
31	平成29 (2017)	橋本正巳	くらしき作陽大学子ども教育学部 教授
32	平成30 (2018)	特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド	代表理事 有森裕子

※第1回から第32回までの受賞者数 計69件 役職などは受賞時のもの

谷口澄夫教育奨励賞

回	年度	受賞者・団体
1	平成13 (2001)	久山将弘 岡山市立岡輝中学校 教諭
		藤本貴司 岡山県立岡山城東高等学校 教諭
2	平成14 (2002)	高木弘子 井原市立高等学校 校長
		竹内秀明 岡山市立芥子山小学校 教諭
		辰田芳雄 岡山県立岡山朝日高等学校 教諭
		長瀬眞由美 ベル学園高等学校 教諭
		山本茂 おかやま山陽高等学校 教諭
3	平成15 (2003)	延堂雅弘 岡山市立南輝小学校 教諭
		津田秀哲 岡山県立瀬戸南高等学校 教頭
4	平成16 (2004)	早島町立早島小学校 校長 入谷秀夫
		安藤きよみ 倉敷市立連島北小学校 教頭
		糸島耕太郎 総社市立常盤小学校 教諭
		山部英之 井原市立井原小学校 教諭
5	平成17 (2005)	井上昭三 学校法人おかやま希望学園 学園長
		大島修 岡山県立鴨方高等学校 教諭
		藤枝茂雄 岡山県教育庁指導課 指導主事
		倉敷市立万寿小学校 校長 須山邦二
		高梁市立高梁中学校 校長 高田茂輝
6	平成18 (2006)	米谷正造 川崎医療福祉大学教授・川崎医療福祉大学大学院 教授
		倉田洋子 井原市立西江原小学校 教諭
		矢部清吾 岡山市立高島中学校 教諭
		井原ジュニア新体操クラブ 代表 井上正
		倉敷市立長尾小学校 校長 筒井律夫
7	平成19 (2007)	秋山繁治 学校法人ノートルダム清心学園清心中学校・清心女子高等学校 教諭
		岡野浩美 小田郡矢掛町教育委員会 指導主幹
		末廣聡 岡山県立備前緑陽高等学校 教諭
		NPO法人 ふれあいサポートちゃていず 代表 湊照代
		ブルー スカイ ブルー NISHIYAMA 代表 赤木保弘
8	平成20 (2008)	全円子 岡山商科大学 講師
		保野孝弘 川崎医療福祉大学 教授
		岡山県立矢掛高等学校 校長 仲田輝康
		倉敷市インクルージョン推進事業全体協議会 代表 石浦洋子
9	平成21 (2009)	明誠学院高等学校チアリーディング部 GAIAS 代表 山本浩一
		小野秀明 前矢掛町立矢掛中学校 教諭
		清水久仁子 倉敷市立大高小学校 教諭
		筈井淳 明誠学院高等学校 教諭
		津山市立北陵中学校吹奏楽部 校長 中島章
		特定非営利活動法人 リスタート 代表 林尚彦

回	年度	受賞者・団体
10	平成22 (2010)	床勝信 岡山市立灘崎中学校 主幹教諭
		岡山県立岡山工業高等学校 校長 小林清太郎
		「川柳でつなぐ地域と学校」推進協議会 代表 大家浩三
		美作市立美作中学校吹奏楽部 代表 高田雅夫
11	平成23 (2011)	NPO法人 子ども達の環境を考える「ひこうせん」 代表 赤迫康代
		服部由利香 前岡山市立岡山後楽館中学校 教諭
12	平成24 (2012)	岡山県立岡山操山中学校 校長 廣本勝裕
		総社市立総社西中学校 校長 藤井和郎
13	平成25 (2013)	安藤由貴子 美作市立梶並小学校 非常勤講師
		佐藤雅代 山陽学園大学 教授
14	平成26 (2014)	松尾綾子 倉敷市立味野中学校 教諭
		飯田純子 美咲町立旭小学校 支援地域コーディネーター
15	平成27 (2015)	岡山県産業教育振興会 代表 末長範彦
		特定非営利活動法人 タップ 代表理事 古谷義子
16	平成28 (2016)	岡山県立総社南高等学校 ダンス部 代表 山本清美
		山陽女子高等学校 地歴部 代表 井上貴司
17	平成29 (2017)	板倉真由美 岡山市立第三藤田小学校 教諭
		合唱団こぶ 代表・指揮者 大山敬子
18	平成30 (2018)	ハーモニーネット未来 認定NPO法人子ども劇場笠岡センター 理事長 宇野均恵
		岡山県NIE推進協議会 会長 加賀勝
19	平成31 (2019)	岡山市立石井小学校 校長 後閑智美
		NPO法人 だっぴ 代表理事 柏原拓史
20	令和元 (2019)	小倉理史 UNOICHI実行委員会 代表
		熊谷愼之輔 岡山大学大学院教育学研究科 教授
21	令和2 (2020)	NPO法人 みる・あそぶ・そだつ津山子ども広場 代表理事 森安恵津子
		清板芳子 ノートルダム清心女子大学名誉教授
22	令和3 (2021)	特定非営利活動法人 元気ZZ 理事長 谷口香里
		特定非営利活動法人 未来へ 理事長 藤本優

※第1回から第18回までの受賞者数 計66件 役職などは受賞時のもの

※平成13年度および平成14年度の当時の名称は「福武教育奨励賞」。谷口澄夫の逝去後、平成15年度から「谷口澄夫教育奨励賞」に変更された。

福武文化賞・福武文化奨励賞——受賞者一覧

□賞の目的

岡山県の文化の向上に著しく貢献した個人や団体の栄誉を讃えるために福武文化賞を贈り、また、岡山県の文化の向上に著しい貢献が期待される個人や団体を奨励するために福武文化奨励賞を贈り、文化の振興による魅力的で豊かな地域づくりに貢献することを目的とする。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体。

福武文化賞

回	年度	受賞者・団体	
1	平成12 (2000)	高木聖鶴	書家
		小川洋子	小説家
2	平成13 (2001)	山口松太	漆芸家
		株式会社くらしきコンサート	
3	平成14 (2002)	古民家再生工房	
		近藤安个	声楽家
4	平成15 (2003)	森田翠玉	工芸作家
		三沢浩二	詩人
5	平成16 (2004)	臼井洋輔	吉備国際大学教授
		松島巖	ガラス工芸家
6	平成17 (2005)	岩崎淑・岩崎洸	ピアニスト・チェリスト
		坂本明子	詩人
7	平成18 (2006)	森陶岳	備前焼作家
		高原洋一	版画家
8	平成19 (2007)	神崎宣武	民俗学者
		吉田全作	酪農家
9	平成20 (2008)	丹下哲夫	手漉和紙製作者
		NPO 法人勝山・町並み委員会	
10	平成21 (2009)	藤原敬介	陶芸作家
		水戸岡鋭治	デザイナー・イラストレーター
11	平成22 (2010)	井上敬子	舞踏家
		原研哉	グラフィックデザイナー

回	年度	受賞者・団体	
12	平成23 (2011)	伊藤謙介	文化振興・京セラ㈱相談役
		小谷眞三	ガラス作家
13	平成24 (2012)	坂手洋二	劇作家・脚本家
		なんば・みちこ	詩人
14	平成25 (2013)	あさのあつこ	児童文学作家・小説家
		佐藤常子	染織作家
15	平成26 (2014)	隠崎隆一	備前焼作家
16	平成27 (2015)	原田マハ	小説家
17	平成28 (2016)	太田三郎	美術家
18	平成29 (2017)	青山融	岡山弁研究者
		高月國光	木工作家
19	平成30 (2018)	能勢伊勢雄	PEPPERLAND 主宰・写真家・美術展企画

※第1回から第19回までの受賞者数 計34件 役職などは受賞時のもの

福武文化奨励賞

回	年度	受賞者・団体	
1	平成12 (2000)	和田海山	木工芸家
		松本和将	ピアニスト
2	平成13 (2001)	観世流藤々会	
		あさのあつこ	児童文学作家
3	平成14 (2002)	田賀屋夙生	狂言師
		山田美那子	脚本作家
		おかやまアートファーム	
4	平成15 (2003)	東敬一	演出家
		岡山フィルハーモニック管弦楽団	
5	平成16 (2004)	岡山古文書を読む会	
		久保田厚子	陶芸作家
		備中たかはし松山踊り実行委員会	
		倉敷アカデミーアンサンブル	

回	年度	受賞者・団体	
6	平成17 (2005)	佐故龍平	金工作家
		撫川うちわ保存会「三杉堂」	
		川埜龍三	造形作家
		岡山市ジュニアオーケストラ	
		みゅーじかる劇団 きんちゃい座	
7	平成18 (2006)	郷原漆器生産振興会	
		岡本悦子	舞踊家・就実大学人文科学部助教授
		柁木和敬	テノール歌手
		倉敷管弦楽団	
8	平成19 (2007)	岡山県古武道連盟	
		岡山パッハカンタータ協会	
		伊藤宏恵	オペラ歌手
		小池郁江	フルート奏者
		NPO 法人21世紀の真庭塾	
9	平成20 (2008)	高月国光	木工芸作家
		宮尾昌宏	陶芸家
		高見信行	トランペット奏者
		特定非営利活動法人ハート・アート・おかやま	
10	平成21 (2009)	山路みほ	箏曲演奏家
		太田三郎	美術家・グラフィックデザイナー
		竹田喜之助顕彰会	
		特定非営利活動法人若い芽を育てる会	
11	平成22 (2010)	井手康人	日本画家
		内山詠美子	マリンバ奏者
		杉浦慶太	写真家
		山部泰嗣	和太鼓奏者
		唐子踊保存会	
12	平成23 (2011)	椿苑	洋画家
		檜山うめ吉	俗曲師
		白石踊会	
		特定非営利活動法人バンクオブアーツ岡山	

回	年度	受賞者・団体	
13	平成24 (2012)	塩津玉容	漆芸家
		三尾奈緒子	フルート奏者
		山川隆之	編集者・吉備人出版代表
		cine/maniwa	
14	平成25 (2013)	青地大輔	写真家
		大島正幸	家具職人
		木村善明	オペラ歌手
		守屋剛志	ヴァイオリニスト
15	平成26 (2014)	伊勢崎晃一郎	備前焼作家
		森山知己	日本画家
		花柳大日翠	日本舞踊家
		NPO 法人倉敷ジュニア・フィルハーモニー オーケストラ	
16	平成27 (2015)	高本敦基	美術家
		中桐望	ピアニスト
		日名川茂美	岡山県認定作州絃製作所 / 作州絃保存 会会長
		横仙歌舞伎保存会	
17	平成28 (2016)	片山康之	美術家
		岸本和明	奈義町現代美術館長
		平井優子	ダンサー・振付演出家
		特定非営利活動法人倉敷町家トラスト	
18	平成29 (2017)	大月ヒロ子	ミュージアムエデュケーションプランナー
		中村智道	映像作家
		浜田高夫	シネマ・クレール支配人
		林正実	鬼ノ塾塾長・阿曾の鉄師
19	平成30 (2018)	上田恭嗣	ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 長・教授
		梅村知世	ピアニスト
		野村昌子	バルーンアーティスト

※第1回から第19回までの受賞者数 計71件 役職などは受賞時のもの

福武教育文化賞——受賞者一覧

□賞の目的

岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人や団体を奨励するために福武教育文化賞を贈り、教育文化の振興による魅力的で豊かな人づくり地域づくりに貢献することを目的とします。高い志を持ち、先駆的で地域への波及効果がある取り組みをしている次世代を担う個人・団体を対象に顕彰し、より一層の継続的な地域への貢献を期待します。

□賞の特色

「活動の質的評価」に加えて、「地域振興への貢献度評価」が加算された総合点によることとなります。またその活動が、広く知られていなくても、先駆的で地域への波及効果のある活動に焦点を当て、顕彰をすることがこの賞の特色です。

□対象

岡山県に在住する個人・団体及び岡山県にかかわりのある個人・団体も表彰の対象とします。

福武教育文化賞

回	年度	受賞者・団体	
1	令和元 (2019)	浅野泰昌	くらしき作陽大学子ども教育学部 講師
		菅原直樹	俳優、介護福祉士／ 「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰
		山地真美	情景描写ピアニスト／ Benerootミュージックアート事業部責任者
2	令和2 (2020)	川嶋絢	ピアニスト／「宙(SORA)への奏で」
		柴田れいこ	写真家
		備中志事人	代表 藤井剛
3	令和3 (2021)	軸原ヨウスケ	グラフィックデザイナー／ COCHAE 代表・アートディレクター
		竹内佑宜	郷土史家／ 公益社団法人津山市観光協会 顧問
		福田廉之介	ヴァイオリニスト／ 一般社団法人 The MOST 理事長
		NPO 法人灯心会 スカイハート灯	代表 藤原恒雄
		たまのチューデントガイドプログラムチーム	代表 妹尾均
4	令和4 (2022)	小林照尚	彫刻家
		森野美咲	ソプラノ歌手
		上田手漣和紙工場	6代目 上田繁男 7代目 上田康正
		おはなしのWA ♪	代表 遠藤寛子
		ズンチャチャ	代表 須原由光

回	年度	受賞者・団体	
5	令和5 (2023)	大森静佳	歌人／塔短歌会 編集委員
		清水ゆき	ミュージカル俳優
		岡山楷の木少年少女合唱団	代表 川崎泰子
		株式会社ありがとうファーム	代表 木庭康輔
		玉野みなと芸術フェスタ実行委員会	代表 斉藤章夫
6	令和6 (2024)	木口雄人	ピアニスト
		NPO 法人 科学わくわくクラブ	理事長 三宅美郷
		つやま城下ハイスクール	代表 和田優輝
7	令和7 (2025)	小澤尚子	大学教員(舞踊教育学)／舞踊家
		角ひろみ	劇作家・演出家
		天川栄人	作家
		特定非営利活動法人備前プレーパークの会	代表理事 北口ひろみ

※第1回から第7回までの受賞者数 計28件 役職などは受賞時のもの

助成の歴史——教育

(単位:千円)

助成 種別	教育研究助成(S62～H27年度)		図書助成(S62～H8、H11～ H15年度) 図書館助成(H9～H10年度)		研究大会助成	
助成 概要	【公募型】教育による人づくり・地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待し、教育に関する有意義な実践活動等を助成する		【図書助成】図書等の充実による図書館利用の活性化及び読書活動の振興を目的とする 【図書館助成】 図書館を利用しての教育活動の研究に対して助成する		学校教育の発展及び地域の教育の発展に資する教育研究大会及び教育的諸行事の開催に助成する	
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
S62(1987)	15	3,000	10	2,000		
S63(1988)	17	3,057	15	3,000	9	1,200
H1(1989)	20	4,000	15	3,000	12	1,750
H2(1990)	20	4,000	15	3,000	10	1,050
H3(1991)	20	4,000	15	3,000	12	1,350
H4(1992)	20	4,000	18	3,000	19	2,350
H5(1993)	21	4,000	17	3,000	15	1,100
H6(1994)	21	4,000	18	3,000	15	1,140
H7(1995)	21	4,000	22	3,000	11	830
H8(1996)	25	4,900	23	4,600	13	1,420
H9(1997)	21	4,015	20	2,600	13	1,250
H10(1998)	38	7,557	13	2,600	14	1,066
H11(1999)	40	7,980	32	3,180	18	2,380
H12(2000)	40	8,000	28	5,000	23	2,700
H13(2001)	42	10,240	32	7,000	22	2,860
H14(2002)	40	9,900	37	6,850	22	2,950
H15(2003)	65	13,850	37	4,550	25	3,650
H16(2004)	69	9,910			22	2,500
H17(2005)	58	11,850			14	2,150
H18(2006)	74	11,950			18	3,850
H19(2007)	56	9,720			19	3,770
H20(2008)	69	11,900			25	2,970
H21(2009)	54	11,150			10	970
H22(2010)	55	11,700			10	1,000
H23(2011)	56	12,000			10	1,000
H24(2012)	56	12,000			10	1,000
H25(2013)	58	11,000			10	1,000
H26(2014)	56	12,000				
H27(2015)	43	10,700				
H28(2016)	55	12,000				
H29(2017)	58	12,000				
H30(2018)	63	13,500				
合計	1,366	273,879	367	62,380	401	49,250

特定教育助成		学力向上を目指す学習 サポーター助成(H21) 学力向上のための活動助成(H22)		学力・人間力 育成推進 事業助成		学力・人間力 育成推進 会議(委託料)		指定研究助成	
今日の教育課題について実践的かつ先進的な研究を行っている教育団体等に対して助成する		地域の高校生や大学生がボランティアとして小中学校に赴き、児童生徒にマンツーマンで教える「学習サポーター」事業など、岡山県の児童生徒の学力向上に資する事業に助成する		「教えて考えさせる授業」を指導法としてIFプランを実施している小中学校区委員会に対して助成する		学校の教育力・教師の力量並びに地域の教育力の強化を通じて児童・生徒の豊かな人間力の育成とその基礎となる学力の向上を目的として平成18年に設立		岡山県教育研究機関等に今日の教育課題である「授業改善」および「学校経営」についてテーマを指定し研究を委託した助成	
件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	委託料総額	件数	助成総額	
2	6,000						3	3,000	
2	6,000						4	4,000	
2	6,000						4	4,000	
2	2,800						1	1,000	
11	4,800						2	1,000	
14	8,200								
14	8,200			2	2,000	2,000			
14	8,200			3	5,000	1,922			
11	10,300			5	10,000	1,038			
8	8,600	1	2,000	9	9,000	2,500			
3	7,500	1	2,000	10	12,000	2,500			
3	8,500			10	10,500	2,500			
3	8,500			7	6,500	2,500			
6	8,000			5	5,500	1,771			
6	8,000			5	5,500	1,476			
11	13,000			3	3,000	1,370			
9	9,890					1,500			
15	11,670								
22	13,415								
112	157,575	2	4,000	59	69,000	21,077	14	13,000	

※H25～特定教育助成6件には学力向上モデル地区助成(4件・地区)を含む

(単位:千円)

助成 種別	平成の 遣唐使 助成事業		個性的教育を 推進する 地区・校助成		英語教育 重点地区・校助成		英語教員 研修助成	
助成 概要	岡山県内の教員、教育 OB、大学生からなる教育ボ ランティアを江西省に派遣 し、南昌大学、江西師範大 学の学生や教員などの協力 を得て、現地の小中学校で 岡山県を紹介する国際理解 講座などを行い、交流を深 めることにより、国際理解及 び有効交流の促進を図る		学校及び地域社会の特 色や地域の要望を踏まえ た個性的で主体的な教 育の実現を目指した取り 組みに助成することによ り、学校及び地域の教育 の充実を図る		現在の教育課題の一つ である英語教育について 「使える英語」教育の実 践的な研究を進める重点 地区・校を選び、該当地 区・校の授業の改善を支 援し、その成果を県内外 の教育関係者に公開・普 及することにより、英語教 育の改善に資する		中学校・高等学校の英 語教員及び小学校で英 語の指導を担当する教 員に対してコミュニケー ション能力の向上を図る 目的で平成12年度より 開始。研修はベルリッツ 岡山ランゲージセンター で行った	
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
S62(1987)								
S63(1988)								
H1(1989)								
H2(1990)								
H3(1991)								
H4(1992)								
H5(1993)								
H6(1994)								
H7(1995)								
H8(1996)								
H9(1997)								
H10(1998)								
H11(1999)								
H12(2000)							20	10,090
H13(2001)							20	9,990
H14(2002)							20	10,000
H15(2003)								
H16(2004)								
H17(2005)			4	12,000	4	12,000		
H18(2006)	1	500	6	18,000	6	18,000		
H19(2007)			7	19,000	7	20,500		
H20(2008)			9	21,000				
H21(2009)			5	9,000				
H22(2010)			3	5,000				
H23(2011)								
H24(2012)								
H25(2013)								
H26(2014)								
H27(2015)								
H28(2016)								
H29(2017)								
H30(2018)								
合計	1	500	34	84,000	17	50,500	60	30,080

英語研修助成		小学校特定 英語研修助成		日中青年 交流事業 への助成		その他助成		合計金額 (千円)
小学校教員の英会話能力を向上させるために集中的な研修を行う目的で市町村教育委員会に委託する方式と変更し、岡山県情報ハイウェイのブロードバンドを活用した双方向テレビ会議システムで岡山市のベルリッツ岡山ランゲージセンターから送信し、それを遠隔の地域で視聴し受講する方式としている		小学校英語教科化にむけて、市町村教育委員会傘下の教育研究団体等が実施する小学生および小学校教員を対象とした、英会話語学レッスンを中心とした研修に対して、必要な経費の1/2を助成する		日本と中国の高校生が相互に訪問交流し、英語または中国語で模擬授業に参加したり互いの生き方について語り合ったりすることにより、相互理解と友好を深め、自己の生き方を深く考える機会にする。あわせて、東アジアの平和構築の一助にする		年度途中で緊急を要する教育活動に対して助成する		
件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	
								5,000
								7,257
								8,750
								8,050
								8,350
								9,350
								8,100
								8,140
								7,830
								10,920
								7,865
								11,223
								13,540
								34,790
								40,090
								39,700
2	2,300							28,150
4	4,690							22,900
4	4,860			1	5,310			56,370
4	4,840			1	6,340	3	2,800	78,480
4	4,874			1	6,584	1	500	80,070
4	5,060			1	6,970	1	300	69,538
4	5,120					4	700	49,040
4	5,200					10	1,950	48,850
						4	750	35,250
						5	1,500	32,000
				1	540	4	1,050	28,861
				2	850	7	1,600	29,426
				2	1,000	6	1,200	27,270
		5	1,143	2	1,000	6	1,300	26,833
		6	2,062	1	700	5	1,200	27,632
				1	900	7	1,920	29,735
30	36,944	11	3,205	13	30,194	63	16,770	899,360

助成の歴史——文化

助成 種別	文化活動助成		指定文化財 保全助成		郷土芸能界 発表助成		瀬戸内圏文化 振興助成		特定文化助成	
助成 概要	【公募型】岡山県内で 行われる、地域の活性 化に貢献することを目 的とした文化活動に助 成する		国、県等が指定し た文化財を保全す るための費用を助 成する		岡山県郷土芸能 振興会が行う「郷 土芸能フェスティバ ル」に助成する		広く瀬戸内圏内の伝 統文化を発掘すると もに、当該の自然・歴 史・風土・伝統を踏ま えた文化の創造・発信 する活動を支援するた めの事業に助成する		地域の文化振興 に特に有益と認め られる記念的な文 化事業に対して助 成する（H15年度 までの名称は特定 文化事業助成）	
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
H9 (1997)	30	5,300								
H10 (1998)	49	8,000								
H11 (1999)	50	8,100	3	1,500						
H12 (2000)	71	14,000	4	3,000	1	2,000			2	4,000
H13 (2001)	74	17,880	4	3,000	1	3,000			3	4,500
H14 (2002)	64	11,450	2	3,000	1	3,000			1	5,000
H15 (2003)	49	10,350	3	1,900	1	1,800			4	4,600
H16 (2004)	70	12,950	4	3,000	1	1,000			9	8,000
H17 (2005)	64	12,000	3	3,000	1	1,800	1	10,000	11	7,200
H18 (2006)	75	14,450	2	3,000	1	1,850	2	13,000	9	12,500
H19 (2007)	81	14,850	3	2,880	1	1,500			11	11,420
H20 (2008)	97	15,900	1	1,200					9	19,330
H21 (2009)	93	16,750	3	1,300					8	14,800
H22 (2010)	101	19,400	2	700					9	16,400
H23 (2011)	94	19,500	1	700					5	8,300
H24 (2012)	100	18,950	3	1,000					7	8,300
H25 (2013)	84	18,000	2	1,000					10	7,750
H26 (2014)	83	17,750							9	7,000
H27 (2015)	86	18,000							8	7,705
H28 (2016)	67	15,600							5	8,500
H29 (2017)	76	16,350							6	8,200
H30 (2018)	64	14,550							7	6,020
合計	1,622	320,080	40	30,180	8	15,950	3	23,000	133	169,525

(単位:千円)

伝統文化振興 事業助成		国民文化祭開催 関連事業助成		国吉康雄特別展 への鑑賞助成		瀬戸内文化 育成助成		その他助成		合計金額 (千円)
備前陶芸の研究 と普及、吉備楽 の復興と普及、 伝統工芸技術の 保全と振興		岡山県文化連盟 に係る地域の文 化力向上事業へ 助成する		岡山市内の小・中 学生等が国吉康 雄特別・を授業・ 行事として鑑賞す るために必要な経 費を助成する		瀬戸内文化の育 成、創出のために 必要なプロジェク トに対して助成す る		年度途中で緊急を 要する文化事業に 対して助成する		
件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	
										5,300
										8,000
										9,600
3	3,000									26,000
3	3,000									31,380
2	2,000									24,450
								3	4,500	23,150
								2	5,000	29,950
								4	28,220	62,220
		1	5,200	2	530			7	2,200	52,730
		1	5,200					11	5,510	41,360
								17	5,440	41,870
						1	1,000	13	4,600	38,450
						5	5,700	13	3,800	46,000
						3	3,100	8	2,900	34,500
						9	4,500	14	2,830	35,580
						10	3,300	20	4,000	34,050
						3	1,200	16	3,750	29,700
						8	3,700	14	3,050	32,455
						6	3,200	19	4,130	31,430
						9	3,600	19	3,450	31,600
						1	1,200	13	2,400	24,170
8	8,000	2	10,400	2	530	55	30,500	193	85,780	693,945

助成の歴史——教育文化

助成種別	教育文化活動助成		福武教育文化賞受賞者フォローアップ助成		特定助成		その他助成		周年記念事業助成	
助成概要	教育及び文化の視点から地域振興を図る活動による人づくり、地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待し、教育文化に関する有意義な実践活動を助成し、地域の教育文化振興に貢献する		福武教育文化賞の受賞者に対して、受賞後も継続して質の向上と人づくり・地域づくりの活動を行うことを促すため、受賞後3ヵ年30万円を限度として申請に基づき助成する		教育文化活動支援のうち、公益性が明確で継続的に支援しなければ効果的でないものに対し、①先進的事業助成、②グローバル化事業助成、③瀬戸内文化育成助成の3分類に分けて、助成する		年度途中で申し出のある緊急を要する教育文化活動に対して助成する			
年度	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額	件数	助成総額
R1 (2019)	133	27,700	3	900	20	15,530	1	180	1	10,500
R2 (2020)	144	30,000	5	1,500	19	8,730	22	5,440	1	10,500
R3 (2021)	118	28,000	4	1,200	19	18,228	1	300	0	0
R4 (2022)	127	30,000	10	3,000	23	19,980	0	0	0	0
R5 (2023)	129	30,000	13	3,550	38	23,630	0	0	0	0
R6 (2024)	108	29,980	13	3,900	37	22,390	2	600	0	0
合計	759	175,680	48	14,050	156	108,488	26	6,520	2	21,000

※件数、助成金額は理事会議案書に基づく

オーストラリア・プレ体験留学

岡山県内の高校生等で、卒業後オーストラリアの公立キャリアカレッジTAFE (Technical and Further Education) への留学を志す者を対象に、TAFEならびにシドニー市内の大学見学やTAFE 付属の英語学校での語学学習の機会(プレ体験留学)を提供し、留学意欲を高め海外進学の効果的な準備を行うことを目的とする。

回	年度	実施月日	研修先	参加人数	備考
1	19年度 (2007)	10月20日～10月27日	シドニー	25	海外教育事情調査としてTAFEを視察
2	20年度 (2008)	8月2日～8月9日	シドニー	25	オーストラリア・プレ体験留学開始
		10月18日～10月25日	シドニー	22	海外教育事情調査としてTAFEを視察
		3月21日～3月28日	シドニー・ブリスベン	21	
3	21年度 (2009)	—	—	0	新型インフルエンザ流行のため未実施
4	22年度 (2010)	8月8日～8月16日	メルボルン・シドニー	42	
5	23年度 (2011)	8月15日～8月21日	シドニー	33	
6	24年度 (2012)	8月12日～8月18日	シドニー	32	
7	25年度 (2013)	8月11日～8月17日	シドニー	24	
8	26年度 (2014)	8月10日～8月16日	シドニー	24	
9	27年度 (2015)	8月2日～8月8日	シドニー	19	
10	28年度 (2016)	7月31日～8月6日	シドニー	22	

講演会・フォーラムの記録

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
	昭和63 (1988)	国際化に対応している学校は 基調講演「国際化と教育」	江淵一公	広島大学教授	8月25日	岡山東急ホ テル
	平成1 (1989)	国際理解教育を学校教育の中 でどのようにすすめていくか 基調講演「新学習指導要領と 国際理解教育について」	中島章夫	未来教育研究所所長	11月11日	まきび会館
1	平成2 (1990)	場に挑み、気を描く	田村能里子	画家	12月1日	福武書店本 社
2	平成3 (1991)	現代青少年とこれからの学校教 育	片岡徳夫	広島大学教育学部教授	5月16日	岡山プラザ ホテル
3	平成4 (1992)	教育の国際化	黒羽亮一	前筑波大学教授	7月4日	まきび会館
4	平成5 (1993)	人を軸とした福武書店の経営哲 学	長尾俊男	株福武書店社長室長	5月29日	レストラン西 川
5	平成6 (1994)	環境教育は足元から ー生物世界の掟ー	宮脇昭	国際生態学センター研 究所長	5月22日	岡山プラザ ホテル
6	平成8 (1996)	戦後の教育改革の問題点 ー「教育県岡山」に寄せてー	谷口澄夫	倉敷芸術科学大学学長	3月2日	岡山東急ホ テル
7	平成9 (1997)	地域づくりと文化	目瀬守男	岡山大学農学部教授	3月15日	岡山プラザ ホテル
8	平成10 (1998)	21世紀の生涯学習とまちづくり	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策部 教授	2月25日	岡山プラザ ホテル
9	平成10 (1998)	21世紀の新しい余暇を考える	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策部 教授	8月5日	岡山県生涯 学習センタ ー
10	平成11 (1999)	21世紀の地域文化を創造する	瀬沼克彰	桜美林大学経営政策部 教授	2月22日	岡山プラザ ホテル
11	平成11 (1999)	我が国が受け入れた中国文化	梅原郁	就実女子大学教授	8月10日	岡山プラザ ホテル
12	平成12 (2000)	シルクロードと楼蘭探検	長澤和俊	就実女子大学教授	1月19日	岡山プラザ ホテル
13	平成12 (2000)	新しいシルクロードの探検ー 熱砂の大海道を行くー	長澤和俊	就実女子大学客員教授	10月27日	岡山プラザ ホテル
14	平成13 (2001)	新アメリカ教育事情ー 学校教育に見る人間形成と地 域・学校の連携ー	青木多寿子	岡山大学教育学部助教 授	2月24日	岡山プラザ ホテル
15	平成13 (2001)	日米のはざまに生きた画家・国 吉康雄	猿谷要	東京女子大学名誉教授	10月29日	ベネッセコ ーボレーシ ョン本社
16	平成14 (2002)	21世紀の教育を考える	柴田一	就実女子大学学長	2月16日	ベネッセコ ーボレーシ ョン本社
17	平成14 (2002)	これからの家庭教育 ー人間の絆を育てるー	佐々木正美	川崎医療福祉大学教授	11月5日	三木記念ホ ール
18	平成15 (2003)	文化を大切に社会をめざし て	大西珠枝	岡山県副知事	1月25日	ベネッセコ ーボレーシ ョン本社
19	平成15 (2003)	「教師が変われば子どもが変わ る」ということ	高旗正人	岡山大学名誉教授	11月29日	ピュアリティ まきび
20	平成16 (2004)	日本再生への提言「岡山文化 の展開原理」	臼井洋輔	吉備国際大学社会学部 教授	1月22日	ベネッセコ ーボレーシ ョン本社
21	平成16 (2004)	コミュニケーション能力の育成 ー英語教育と国際理解教育の 接点を求めてー	松畑熙一	岡山大学副学長	11月27日	ピュアリティ まきび

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
22	平成17 (2005)	東アジアから見た総社の鬼ノ城	葛原克人	ノートルダム清心女子大 学教授	1月27日	岡山国際ホ テル
23	平成17 (2005)	生きる力と学力形成 ー教育の復権を求めてー	森川直	岡山大学 教育学部長	11月19日	ピュアリティ まきび
24	平成17 (2005)	みのりある教育に向けて ー学校と地域で「確かな学力」を 育てるー	市川伸一	東京大学大学院 教授・ 文学博士	12月26日	ホテルグラン ヴィア岡山
25	平成18 (2006)	芸術創造の心について	蛭田二郎	日本芸術院会員 岡山 大学名誉教授	1月24日	岡山プラザ ホテル
26	平成18 (2006)	今何故学力・人間力の育成が求 められているのか ー岡山県での取り組みー	市川伸一	東京大学大学院 教授・ 文学博士	8月27日	岡山プラザ ホテル
27	平成18 (2006)	現代教育と日本の教育	モハammad・ラ イス	株式会社林原 専務取 締役	11月4日	ピュアリティ まきび
28	平成18 (2006)	教育・文化が果たす役割と未来	村上龍	作家	11月30日	ベネッセコ ーボレーシ ョン本社
29	平成19 (2007)	「岡山県の友人たち」	菅原文太	俳優	11月10日	岡山コンベン ションセンタ ー
30	平成21 (2009)	みんなが参加し考える国際シン ポジウム瀬戸内海「未来から見た 風景」			3月14日	山陽新聞さん 太ホール
		基調講演「瞑想の海」	中西進	奈良県立万葉文化館長		
		基調講演「地中海・海洋都市の 歴史」	ジュゼッペ・ガ ルガーノ	前アマルフィ歴史文化セ ンター所長		
		基調講演「南イタリアの歴史を 活かした街づくり」	陣内秀信	法政大学 教授		
		基調講演「地域から世界へ発信 瀬戸内国際芸術祭」	福武總一郎	直島福武美術館財団 理事長		
31	平成22 (2010)	瀬戸内海を希望の海にー芸術 祭の思想と期待するものー	千葉喬三	岡山大学長	3月17日	山陽新聞さん 太ホール
32	平成22 (2010)	瀬戸内国際芸術祭2010 アー トをめぐる・連続シンポジウム 第1回「美術とキュレーション、そ の仕事」	北川フラム	建築家	7月4日	岡山国際交 流センター
			妹島和世	東京都現代美術館チーフ キュレーター		
			長谷川祐子	アーティスト		
33	平成24 (2012)	フォーラム「ここに生きる、ここで 創る」vol.1 ー地域は「文化」 を求めているかー 基調講演「劇場にできること」 トークセッション:暮らしているか らこそできる、まちづくり	柳幸典	瀬戸内国際芸術祭総合 ディレクター	1月9日	ルネスホー ル
			北川フラム	鳥の劇場 芸術監督		
			大森誠一	NPO法人アートファ ーム 代表理事		
34	平成24 (2012)	「Setouchi Triennale ー瀬戸 内海を希望の海にー」	山川隆之	吉備人出版 代表	10月21日	ターミナルス クエア
35	平成25 (2013)	「Setouchi Triennale ー瀬戸 内海を希望の海にー」	杉浦慶太	写真作家	3月2日	ルネスホー ル
			山崎樹一郎	cine/maniwa 代表		
			井筒耕平	美作市地域おこし協力 隊		
		トークセッション:暮らしているか らこそ見える、可能性	山川隆之 (コーディネ ーター)	吉備人出版 代表		

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
36	平成26 (2014)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.3 ―地域を紡ぐ、モノづくり―	吉田全作	チーズ職人・酪農家	1月13日	ルネスホール
		トークセッション:モノづくりと地域づくり	加納容子	染織作家		
			大島正幸	家具職人		
37	平成27 (2015)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.4 ―地域の明日のつくりかた―	山川隆之 (コーディネーター)	吉備人出版 代表	1月12日	Junko Fukutake Hall
		基調講演「地域でチャレンジをプロデュースする～西栗倉村・森の学校の挑戦～」	牧大介	株式会社西栗倉・森の学校 代表取締役		
			河上直美	NPO 法人タブラサ 理事長		
			浅井克俊	瀬戸内市地域おこし協力隊		
			森美樹	うのずくり実行委員会 委員長/ガラス作家		
38	平成28 (2016)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」vol.5 ―地域資源をリノベーション―	山川隆之 (コーディネーター)	吉備人出版 代表	1月11日	Junko Fukutake Hall
		基調講演「ルネス10年の歩み」	黒瀬仁志	特定非営利活動法人バンクオブアーツ岡山 特別顧問		
			大月ヒロ子	IDEA R LAB 代表/ミュージアム・エデュケーション・プランナー		
			片山康之	一般社団法人クリエイターズラウンジ/美術家		
			高本敦基	岡野屋旅館プロジェクト/美術家		
39	平成29 (2017)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.6 ―地域にこそ在る最先端―	山川隆之 (コーディネーター)	吉備人出版 代表	1月14日	Junko Fukutake Hall
		プレゼンテーション「文化と地方の力で日本再生を」 「課題の現場から文化芸術立国を提唱する」 「価値創造の場としての劇場運営」	近藤誠一	元文化庁長官		
			平田オリザ	劇作家/演出家		
			中島諒人	演出家/鳥の劇場芸術監督		
			中島諒人	演出家/鳥の劇場芸術監督		
40	平成30 (2018)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.7 ―地域からの教育再生―	片山善博	早稲田大学公共経営大学院 教授	1月13日	Junko Fukutake Hall
		基調公演「これからの教育に求められること ―教育と地方自治―」氏	柏原拓史	NPO 法人だっぴ 代表		
			藤井裕也	特定非営利活動法人山村エンタープライズ 代表		
			原田謙介	特定非営利活動法人 Youth Create/岡山大学非常勤講師		
			原田謙介	特定非営利活動法人 Youth Create/岡山大学非常勤講師		

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
41	令和元 (2019)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.8 ―「災害」と「文化」のいま、むかし、これから―	永田宏和	NPO 法人プラス・アーツ 理事長	1月19日	Junko Fukutake Hall
		プレゼンテーション「+クリエイティブでつくる防災教育の新しいカタチ」 「災害―文化に何ができるのか」 「被害状況の報告と市民の動き」	大澤寅雄	ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト		
			石原達也	NPO 法人岡山NPO センター 代表理事		
42	令和2 (2020)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.9 ―地域資源の地消地産を文化に―	藻谷浩介	日本総合研究所 主席 研究員	7月25日	オンラインフォーラム (Zoom ウェビナー)
		基調講演「交流を定住につなげる地消地産」	青山雅史	引両紋 代表取締役		
			川崎好美	岡山県立倉敷商業高等学校 教諭		
			和田優輝	和田デザイン事務所 代表取締役		
			石田篤史 (コーディネーター)	公益財団法人みんなでつくる財団おかやま 専務理事		
43	令和5 (2023)	フォーラム「ここに生きる、ここで創る」Vol.10 ―人づくり、地域づくりの原点回帰―	北川フラム	アートディレクター／アートフロントギャラリー主宰	1月14日	Junko Fukutake Hall
		基調講演「地域型芸術祭の目指すところ」	甘利彩子	NPO 法人瀬戸内こえびネットワーク 事務局長		
			福井大和	特定非営利活動法人 男木島生活研究所 代表		
			江森真矢子	一般社団法人まなびと代表理事		
			成清仁士	ノートルダム清心女子大学 人間生活学科 准教授		
44	令和6 (2024)	未来の歩き方教室 不確かな世界を生き抜くためのコンパス	慎泰俊	五常・アンド・カンパニー 創設者・代表執行役	12月14日	KURUN HALL
		講演「機会の平等をつくる仕事」				
		質疑応答:お話を聞いて一問一答				
		パネルディスカッション:慎泰俊×中学生「未来の歩き方」				

※昭和63年は「教育の国際化実践セミナー」、平成元年は「国際理解教育実践セミナー」として開催
※平成2年度から「教育・文化講演会」を開始

andF教室の記録

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト	開催日	会場
1	平成29 (2017)	みんなで取り組む地域連携 —岡山のシティズンシップ教育 を考える	川中大輔	龍谷大学社会学部現代 福祉学科講師／シズ ンシップ共育企画代表	岡山市立岡 山後楽館高 校
2		これからのアントレプレナーシ ップ教育 —岡山で明日から使える起業家 教育	大野圭司	株式会社ジブンノオト代 表取締役	SGSG
3	平成30 (2018)	あなたの活動伝わってる?「伝え る」「伝わる」を考える —デザイン×Web×編集 SNS 時代の広報術	佐藤豪人	デザインストラテジスト/ アートディレクター／デザ イナー、HIDETO SATO DESIGN 代表	岡山県立図 書館
			三宅真人	WEBデザイナー／プロ グラマー、トライマンデ ザイン代表	
			山川隆之	編集者、吉備人出版代 表	
4	5	地域で活動を続けるヒケツを探 ろう! —あなたの思いを地域につなげ る	石原達也	岡山 NPO センター副代 表理事／みんなの集落 研究所代表執行役	玉野市産業 振興ビル
5		これからのアントレプレナーシ ップ教育 —なぜ田舎は過疎に?起業家マ インドからのアプローチ	大野圭司	株式会社ジブンノオト代 表取締役	岡山県立和 気岡谷高校
6	令和元 (2019)	SDGsの視点から、自分たちの 活動をみてみよう —市民活動とSDGs	青尾謙	岡山大学 副理事／大 学院講師 公益財団法人 助成財団センター参 与	ベネッセコ ーポレーシ ョン広瀬町 (会議室)
7		Society 5.0時代、何が変わる? 何が必要? —学びがかわる、働き方がかわ かる	浦崎太郎	大正大学 地域構想研 究所 教授 (教育による 地域創生チーム)	ベネッセコ ーポレーシ ョン広瀬町 (会議室)
8		助成金の不採択と採択の差って なんだろう? —助成金はどういうものかを知 ることから	山田泰久	一般財団法人非営利組 織評価センター 業務 執行理事	岡山県立図 書館(サーク ル活動室2)
9	令和2 (2020)	助成金の基本の「き」を学ぶ —申請前に知っておきたい、や っておきたい準備	山田泰久	一般財団法人非営利組 織評価センター 業務 執行理事	Zoomによ るオンライン 開催
10		グラフィックレコーディングの基 本の「き」を学ぶ —明日からつかえるコツをつかむ	北浦菜緒	カンコーマナボネクト (株)所属／教育コーデ イナー	Zoomによ るオンライン 開催
11	令和3 (2021)	動画づくりの基本の「き」を学ぶ —知的財産って知っていますか?	源文彰	岡山科学技術専門学校 学生課長兼映像音響 学科長	岡山科学技 術専門学校
12		活動資金の基本の「き」を学ぶ —活動を継続させるためには?	高田佳奈	公益社団法人岡山県文 化連盟 主任／認定ファ ンドレイザー	Zoomによ るオンライン 開催
13		RESASの基本の「き」を学ぶ —ビッグデータを活用してみませ んか?	川崎好美	岡山県立倉敷商業高等 学校教諭(教科:商業)	Zoomによ るオンライン 開催
14		マインドマップの基本の「き」を 学ぶ —「考える」ツールを手に入れま せんか?	坂ノ上博史	一般社団法人 高梁川 流域学校 代表理事	Zoomによ るオンライン 開催

回	年度	演題・テーマ	講師・パネリスト		開催日	会場
15	令和4 (2022)	自分たちの活動を社会に発信し ませんか？ —プレスリリースとは何かを学び ましょう	瀬尾由紀子	株式会社山陽新聞社 NIB・NIE 部長、編集委 員室委員	6月24日	Zoom による オンライン 開催
16		プレゼンテーションの基本の 「き」 —プレゼンテーションが上手に なるコツ	坂ノ上博史	一般社団法人 高梁川 流域学校 代表理事	8月21日	Zoom による オンライン 開催
17		みんな活(みんなの活動)合同説明 会 —申請前に知っておきたい、や っておきたい準備	石田篤史	公益社団法人みんな でつくる財団おかやま 初 代代表理事	10月19日	Zoom による オンライン 開催
18		対話型鑑賞を体感してみませ んか	間部俊一	株式会社ベネッセホール ディングス 本社・直島 統轄部	2月11日	株式会社ベ ネッセホール ディングス南 方本社
19	令和5 (2023)	非認知能力の基本の「き」 —非認知能力とは何かを学びま しょう	中山芳一	岡山大学教育推進機構 准教授	7月15日	岡山県天神 山文化プラ ザ
20		直島で対話型鑑賞を体感してみ ませんか	藤原綾乃	公益財団法人 福武財 団	8月20日	ベネッセハ ウス ミュ ージアム(直 島)
21		助成金申請前に知っておきた い、やっておきたい準備	高田佳奈	公益社団法人岡山県文 化連盟 主任／認定ファ ンドレイザー	10月15日	Zoom による オンライン 開催
22	令和6 (2024)	SNSの基本の「き」 —認知度UP・集客・交流 発信 でご縁を育む SNS 活用	小林美希	ええが Labo 代表	8月4日	岡山県天神 山文化プラ ザ
23		資金調達の基本の「き」 —必要な要素を1つずつ整理し て、ステップアップ!	森田悠太郎	公益財団法人みんな でつくる財団おかやま事務 局長	10月20日	FUN LIFE CENTER BUILDING (FLCB)
24		ファシリテーション基本の「き」 —学び合い 育ち合う対話の場を つくる方法	横山弘毅	高梁100challenge代 表／岡山県立高梁高校 地域連携コーディネータ ー	12月1日	ルネスホル ル Zoom によるオン ライン配信
25	令和7 (2025)	Canvaの基本の「き」	杉原禎章	コミュニケーションデザ イナー	6月22日	ルネスホル ル
26		対話型鑑賞の基本の「き」	寺元静香	公益財団法人大原芸術 財団大原芸術研究所・ 大原美術館 研究部 研究員・エディケーター	8月23日	倉敷市倉敷 物語館
27		資金調達の基本の「き」	森田悠太郎	公益財団法人みんな でつくる財団おかやま事務 局長	10月18日	FUN LIFE CENTER BUILDING (FLCB)

福武教育文化叢書の記録

	年度	著書名	著者	仕様	発刊日	発行	内容
1	平成19 (2007)	犬島ものがたり —アートの島の 昨日・今日・明日	在本桂子	A5判 186ペ ージ	12月31日	吉備人 出 版	瀬戸内に浮かぶ周囲4キロの犬島。岡山市で唯一人が住む島は、かつては石の島として知られ、大阪城をはじめ日本中にその巨石が運び出された。現代では、数多くの映画のロケが行われ、舞台芸術の舞台ともなり、今、アートの島として生まれ変わろうとしている。豊かな自然に恵まれた犬島に生まれ、この島をこよなく愛する著者が、島の昨日・今日そして未来へ案内する。
2	平成21 (2009)	音楽さえあれば —ピアノとチェ ロで世界を巡る	岩崎 淑 岩崎 洸	四六判 206ペ ージ	3月31日	吉備人 出 版	音楽を愛する両親のもとで生まれた岩崎淑と岩崎洸。空腹感と戦争の恐怖のなかでも音楽を忘れることなく育った二人は、世界的な活躍をみせる音楽家に成長。音楽にふれた幼いころ、アメリカでの修行時代、一流の演奏家たちとの共演、そして後進の指導など、全編音楽への愛情にちりばめられています。
3	平成22 (2010)	のれん越しに 笑顔がのぞく —勝山—暮らし から始まるま ちづくり	NPO勝山 町並み委 員会・編	A5判 129ペ ージ	3月31日	吉備人 出 版	町並みを飾るのれん、町をあげてのお雛まつり、故郷を離れている若者が年に一度はこのために帰ってくるという秋の勝山まつり……。自分たちの暮らしを大事にし、ここで豊かに生きること、楽しく生きることを主眼とした、まちづくりとはいったい何なのだろう。四半世紀近くにわたってまちづくりを担い、楽しみながら先頭を走ってきた人たちの話を基に、「美しいまちなみ大賞」(国土交通省・2009)を受賞した岡山・勝山のまちづくりの秘密を探る。

海の劇場の記録

◎教育支援で培った学ぶ力と文化支援で育んだ創る力を地域の未来づくりに役立てるために、NPO 法人アートファームとの共催により次の2事業を実施。

□教育普及事業（学校でひろく舞台芸術教室）
アーティストを学校に派遣して子どもたちの創造性と表現力を高める事業

年度	対象校	講師
平成23 (2011)	岡山市角山小学校	角ひろみ(劇作家)
	玉野市立宇野中学校	MAKI(藤原麻紀・コード“M”プロデューサー)
	岡山県立西大寺高等学校・ダンス部	山下残(振付家・演出家)
平成24 (2012)	岡山県立総社高等学校	大岡淳(劇作家・演出家)
	岡山市角山小学校	角ひろみ(劇作家)
平成25 (2013)	岡山市立竹枝小学校	北村成美(舞踊家・振付家)
	岡山市立朝日小学校	北村茂美(舞踊家・振付家)
平成26 (2014)	岡山市立朝日小学校	須原由光 & ズンチャチャメンバー
	岡山市立竹枝小学校	小野寺修二(演出家・カンパニー・デラシネラ主宰)
平成27 (2015)	岡山市立朝日小学校	小野寺修二(演出家・カンパニー・デラシネラ主宰)
	岡山市立馬屋下小学校	北村茂美(舞踊家・振付家)
平成28 (2016)	岡山市立朝日小学校	大岡淳(演出家・劇作家)
	岡山市立小串小学校	中島諒人(演出家・鳥の劇場芸術監督)
平成29 (2017)	岡山市立朝日小学校	白神ももこ(舞踊家・演出家・振付家、モモンガ・コンプレックス主宰)
	岡山市立小串小学校	中島諒人(演出家、鳥の劇場芸術監督)、齊藤頼陽(鳥の劇場俳優)、村上里美(鳥の劇場俳優)
平成30 (2018)	岡山市立朝日小学校	白神ももこ(舞踊家・演出家・振付家、モモンガ・コンプレックス主宰)、北村めい(アシスタント・四国学院大学4年)
	岡山市立小串小学校	中島諒人(演出家、鳥の劇場芸術監督)、齊藤頼陽(鳥の劇場俳優)、村上里美(鳥の劇場俳優)
	岡山市立小串小学校	平井優子(舞踊家・振付家、M.A.P.主宰)

□創造発信事業(演劇・ダンス等の公演)
岡山（主に犬島）の地域資源と舞台芸術をつなぐ事業

年度	公演名		公演日	公演場所
平成23 (2011)	維新派「風景画」犬島公演	構成・演出＝松本雄吉	9月23日・24日・25日	犬島
	移動演劇 宮本常一への旅 地球4周分の歌	演出＝村川拓也	10月9日・10日	犬島
平成24 (2012)	犬島ダンス掌編集「たまゆら」	舞踊＝湯浅永麻、ミゲル・オリベイラ、柳本雅寛、楠田健造	7月28日・29日	犬島
	新作野外劇「内海のクジラ」	作・演出＝坂手洋二・燐光群	9月22日・23日	犬島
	日本初演「天使バビロンに來たる」	演出＝中島諒人・鳥の劇場	11月3日・4日	犬島・犬島精錬所美術館
平成26 (2014)	悲劇と廃校の美しい関係「ロミオとジュリエット」公演	演出＝小野寺修二	10月4日・5日	旧内山下小学校体育館

※23・24年度は創立25周年記念事業として開催

財団年表

年度	財団の主な出来事	その他、主な出来事
昭和61年 (1986)	8月29日 財団法人福武教育振興財団設立 初代理事長に谷口澄夫が就任 事務所を岡山市高柳東町10番1号に置く 10月15日 第1回理事・評議員会開催	
昭和62年 (1987)	福武哲彦教育賞を制定	
平成元年 (1989)		消費税導入
平成2年 (1990)	事務所を岡山市南方3丁目7番17号に移転	
平成6年 (1994)		阪神・淡路大震災発生(平成7年1月17日)
平成7年 (1995)		(株)福武書店、(株)ベネッセコーポレーションに社名変更
平成8年 (1996)	7月8日 財団法人福武文化振興財団設立発起人会 8月23日 財団法人福武文化振興財団設立 初代理事長に谷口澄夫が就任 事務所を岡山市南方3丁目7番17号に置く	
平成10年 (1998)	機関誌「不易」創刊	
平成12年 (2000)	福武文化賞・福武文化奨励賞を制定 平成13年1月15日 谷口澄夫理事長 急逝(87歳) 2代目理事長に福武総一郎が就任	
平成13年 (2001)	福武教育奨励賞を制定	
平成14年 (2002)	福武教育奨励賞を谷口澄夫教育奨励賞に名称変更	
平成16年 (2004)		財団法人 直島福武美術館財団設立 地中美術館開館
平成18年 (2006)	教育財団設立20周年記念・文化財団設立10周年 記念講演会開催、記念誌発刊	岡山県立美術館特別展「国吉康雄展」開催
平成19年 (2007)	教育財団と文化財団が統合し「福武教育文化振興財団」になる 財団ロゴ完成	財団法人 文化・芸術による福武地域振興財団設立
平成20年 (2008)		犬島アートプロジェクト「精錬所」開館
平成21年 (2009)	大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009 視察	
平成22年 (2010)	「瀬戸内国際芸術祭」実行委員会に入る 維新派「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」犬島公演 東日本大震災に係る義援金寄託(山陽新聞)	瀬戸内国際芸術祭2010 李禹煥美術館開館 犬島「家プロジェクト」開館 豊島美術館開館 第25回国民文化祭・おかやま2010 東日本大震災発生(平成23年3月11日)
平成23年 (2011)	財団設立25周年記念事業「犬島 海の劇場」事業 開始	岡山県立美術館特別陳列「福武コレクションによる国吉康雄展」開催

年度	財団の主な出来事	その他、主な出来事
平成24年 (2012)	4月1日 公益財団法人に認定 「公益財団法人 福武教育文化振興財団」に移行 「瀬戸内国際芸術祭」岡山県内情報交換会等開催	福武学術文化振興財団、直島福武美術館財団、文化・芸術による福武地域振興財団の3財団ともに公益財団法人に認定後「公益財団法人 福武財団」に統合
平成25年 (2013)		瀬戸内国際芸術祭2013 Junko Fukutake Hall(岡山大学鹿田キャンパス内)オープン
平成26年 (2014)	財団公式web全面リニューアル	Junko Fukutake Terrace(岡山大学津島キャンパス内) オープン
平成27年 (2015)	名誉顧問に福武総一郎が就任 3代目理事長に福武純子が就任 30周年記念事業「岡山大学寄付講座」開始 スミソニアン博物館「国吉康雄展」視察 財団公式Facebook開始	スミソニアン博物館(ワシントンDC) 「国吉康雄展」開催
平成28年 (2016)	財団設立30周年記念フォーラム開催、記念誌発刊 瀬戸内国際芸術祭2016参加機運の醸成に取り組む 平成28年2月10日 福武純子理事長 急逝(69歳) 4代目理事長に松浦俊明が就任	瀬戸内国際芸術祭2016 横浜そごう美術館「国吉康雄展」開催 岡山県立美術館「国吉康雄展」開催
平成29年 (2017)		
平成30年 (2018)	西日本豪雨災害に係る義援金寄託(岡山県) 被災地支援緊急助成を行う	西日本豪雨災害発生
令和元年 (2019)	福武哲彦教育賞、谷口澄夫教育奨励賞、福武文化賞、福武文化奨励賞を一本化し福武教育文化賞を制定 教育活動助成、文化活動助成を一本化し教育文化活動助成を制定 福武教育文化賞受賞者フォロー助成を開始 事務所を岡山市北区広瀬町1番5号に移転	瀬戸内国際芸術祭2019 新型コロナウイルス感染症発生
令和2年 (2020)	コロナ禍を乗り越えるための緊急助成を行う 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、フォーラム、助成の成果報告会をオンラインで開催	新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延し緊急事態宣言発令
令和3年 (2021)	財団設立35周年記念事業として、教育文化活動助成の電子申請開始 教育文化活動助成に関するアンケート調査実施、記念誌発刊	新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延し緊急事態宣言発令
令和4年 (2022)	財団設立35周年記念講演開催 財団公式web全面リニューアル	瀬戸内国際芸術祭2022
令和5年 (2023)	基本財産である株式会社ベネッセホールディングス株式を売却	新型コロナウイルス感染症「5類感染症」に変更
令和6年 (2024)	売却金による資産運用開始 業務量調査実施	森の芸術祭 晴れの国・岡山2024 株式会社ベネッセホールディングス上場廃止
令和7年 (2025)	事務所を岡山市北区高柳東町9番1号に移転	瀬戸内国際芸術祭2025 直島新美術館が開館 新「公益法人制度・会計基準」施行

役員・評議員一覧／財団法人福武教育振興財団

(※ BC…ベネッセコーポレーション、BH…ベネッセホールディングス)

昭和61年度(1986)			昭和62年度(1987)	
理事長	谷口澄夫	兵庫教育大学学長	谷口澄夫	兵庫教育大学名誉教授・元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店代表取締役社長	福武總一郎	福武書店代表取締役社長
常任理事	小野啓三	福武書店顧問	小野啓三	福武書店顧問
	坂田注	岡山大学教育学部教授	坂田注	岡山大学教育学部教授
	宮地暢夫	岡山県教育委員会教育長	宮地暢夫	岡山県教育委員会教育長
理事	江見公雄	岡山県中学校長会会長	小山繁	岡山県小学校長会会長
	阪本曉夫	岡山県高等学校長協会会長	長尾俊男	福武書店社長室室長
	長尾俊男	福武書店社長室長	西田譲	岡山県学校図書館協議会会長
	西田譲	岡山県学校図書館協議会会長	平山武茂	福武書店役員
	平山要	岡山県小学校長会会長	横野昭輝	岡山県高等学校長協会会長
	平山武茂	福武書店役員	松井朗	岡山県中学校長会会長
	森嘉吉	岡山県私学協会会長	森嘉吉	岡山県私学協会会長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	蓬郷三郎	福武書店顧問	蓬郷三郎	福武書店顧問
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	岡山大学教育学部教授
	泉本哲夫	山陽新聞社論説委員	泉本哲夫	福武教育振興財団事務局長
	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長
	大塚彌太郎	福武書店部長	大塚彌太郎	福武書店部長
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	奥山憲治	岡山県私学協会副会長
	加計勉	岡山理科大学総長	加計勉	岡山理科大学総長
	片山嘉雄	津山工業高等専門学校校長	片山嘉雄	就実女子大学文学部部長
	杉富士雄	岡山大学文学部教授	河本真佐夫	岡山県PTA連合会会長
	友野澄雄	岡山県立博物館館長	杉富士雄	中国短期大学学長
	永井三郎	福武書店取締役	友野澄雄	岡山大安寺高等学校校長
	原田幸春	福武書店部長	永井三郎	福武書店取締役
	春木伸正	岡山県PTA連合会会長	原田幸春	福武書店部長
	福島保	福武書店部長	福島保	福武書店部長

昭和63年度(1988)			平成元年度(1989)	
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長	谷口澄夫	元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店社長	福武總一郎	福武書店社長
常任理事	小野啓三	福武書店顧問	小野啓三	福武書店顧問
	坂田注	岡山大学教育学部教授	坂田注	岡山大学教育学部教授
	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長
	宮地暢夫	福武書店顧問	宮地暢夫	福武書店顧問
理事	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長	幾田尚	岡山県学校図書館協議会会長
	杉山定雄	岡山県学校図書館協議会会長	金田睦弘	岡山県小学校長会会長
	中山重義	岡山県高等学校長協会会長	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長
	長尾俊男	福武書店社長室室長	中山重義	岡山県高等学校長協会会長
	平山武茂	福武書店役員	長尾俊男	福武書店社長室室長
	古河三朗	岡山県小学校長会会長	平山武茂	福武書店取締役
	松井朗	岡山県中学校長会会長	福武信子	会社役員
			渡辺孝夫	岡山県中学校長会会長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	蓬郷三郎	福武書店監査役	蓬郷三郎	福武書店監査役
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	岡山大学教育学部教授
	泉本哲夫	福武教育振興財団事務局長	泉本哲夫	福武書店岡山教育研究所顧問
	大熊隆志	岡山県町村教育長協議会会長	大嶋知之	福武書店部長
	大嶋知之	福武書店部長	大塚彌太郎	福武書店部長
	大塚彌太郎	福武書店部長	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	奥山憲治	岡山県私学協会副会長
	奥山憲治	岡山県私学協会副会長	片山嘉雄	岡山理科大学総長
	加計勉	岡山理科大学総長	菅野邦夫	就実女子大学文学部部長
	片山嘉雄	就実女子大学文学部部長	杉富士雄	岡山県町村教育長協議会会長
	杉富士雄	中国短期大学学長	友野澄雄	中国短期大学学長
	友野澄雄	岡山大安寺高等学校校長	永井三郎	岡山大安寺高等学校校長
	永井三郎	福武書店取締役	原田幸春	福武書店常務取締役
	原田幸春	福武書店部長	平松幹章	福武書店部長
	平松幹章	岡山県PTA連合会会長		岡山県PTA連合会会長

平成2年度(1990)					平成3年度(1991)				
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長			谷口澄夫	元岡山大学学長			
副理事長	福武總一郎	福武書店社長			福武總一郎	福武書店社長			
常任理事	小野啓三	福武書店顧問			坂田注	岡山大学教育学部教授			
	坂田注	岡山大学教育学部教授			竹内康夫	岡山県教育委員会教育長			
	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長			松浦正義	岡山大学教育学部教授			
	宮地暢夫	福武書店顧問			宮地暢夫	福武書店顧問			
理事	幾田尚	岡山県学校図書館協議会会長			佃幸男	岡山県高等学校長協会会長			
	小竹凡子	岡山県国公立幼稚園長会会長			坪井克己	岡山県学校図書館協議会会長			
	須賀明	岡山県中学校長会会長			中山晴人	岡山県中学校長会会長			
	中山重義	岡山県高等学校長協会会長			長尾俊男	福武書店社長室室長			
	長尾俊男	福武書店社長室室長			則武愛子	岡山県国公立幼稚園長会会長			
	平山武茂	福武書店取締役			福武信子	会社役員			
	福武信子	会社役員			藤原克己	岡山県小学校長会会長			
	分島久志	岡山県小学校長会会長			村岡英臣	福武書店取締役			
監事	甲元恒也	弁護士			甲元恒也	弁護士			
	蓬郷三郎	福武書店監査役			蓬郷三郎	福武書店監査役			
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授			秋山和夫	岡山大学教育学部教授			
	泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			
	植田博文	福武書店部長			大嶋知之	福武書店部長			
	大嶋知之	福武書店部長			大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			
	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			加計勉	岡山理科大学総長			
	加計勉	岡山理科大学総長			菅野邦夫	岡山県町村教育長協議会会長			
	菅野邦夫	岡山県町村教育長協議会会長			杉慎吾	倉敷市翠松高等学校校長			
	杉慎吾	岡山県私学協会副会長			竹内哲郎	就実短期大学部長			
	杉富士雄	中国短期大学学長			永井三郎	福武書店常務取締役			
	佃幸男	岡山朝日高等学校校長			原田幸春	福武書店部長			
	永井三郎	福武書店常務取締役			福井正晃	岡山県PTA連合会会長			
	原田幸春	福武書店部長			三戸信子	岡山市教育センター指導嘱託			
	福井正晃	岡山県PTA連合会会長			八木智	福武書店次長			
	三戸信子	岡山市教育センター指導嘱託							

平成4年度(1992)					平成5年度(1993)				
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長			谷口澄夫	元岡山大学学長			
副理事長	福武總一郎	福武書店社長			福武總一郎	福武書店社長			
常任理事	坂田注	岡山大学教育学部教授			坂田注	岡山県立大学教授			
	竹内康夫	岡山県教育委員会教育長			松浦正義	岡山大学教育学部教授			
	松浦正義	岡山大学教育学部教授			宮地暢夫	岡山県立美術館館長			
	宮地暢夫	福武書店顧問			森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長			
理事	佐藤博文	岡山県中学校長会会長			近藤昂	岡山県中学校長会会長			
	佃幸男	岡山県高等学校長協会会長			高杉早苗	岡山県小学校長会会長			
	内藤昇之助	岡山県小学校長会会長			佃幸男	岡山県高等学校長協会会長			
	長尾俊男	福武書店社長室室長			長尾俊男	福武書店社長室室長			
	服部静香	岡山県国公立幼稚園長会会長			服部静香	岡山県国公立幼稚園長会会長			
	福武信子	会社役員			福武信子	会社役員			
	皆木徹典	岡山県学校図書館協議会会長			皆木徹典	岡山県学校図書館協議会会長			
	村岡英臣	福武書店取締役			村岡英臣	福武書店取締役			
監事	甲元恒也	弁護士			甲元恒也	弁護士			
	蓬郷三郎	福武書店監査役			蓬郷三郎	福武書店監査役			
評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授			秋山和夫	岡山大学教育学部教授			
	泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			泉本哲夫	岡山県地方労働委員会委員			
	大嶋知之	福武書店部長			大嶋知之	福武書店部長			
	大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			大森三郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長			
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			
	加計勉	岡山理科大学総長			加計勉	岡山理科大学総長			
	菅野邦夫	岡山県町村教育長協議会会長			杉慎吾	倉敷市翠松高等学校校長			
	杉慎吾	倉敷市翠松高等学校校長			竹内哲郎	就実短期大学教授			
	竹内哲郎	就実短期大学教授			永井三郎	福武書店常務取締役			
	永井三郎	福武書店常務取締役			原田幸春	福武書店部長			
	原田幸春	福武書店部長			三戸信子	岡山市教育センター指導嘱託			
	三戸信子	岡山市教育センター指導嘱託			宮本久雄	岡山県町村教育長協議会会長			
	森学	岡山県PTA連合会会長			森学	岡山県PTA連合会会長			
	八木智	福武書店次長			八木智	福武書店次長			

平成6年度(1994)			平成7年度(1995)	
理事長	谷口澄夫	元岡山大学学長	谷口澄夫	元岡山大学学長
副理事長	福武總一郎	福武書店社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
常任理事			長尾俊男	BC社長室室長
理事	方川淳	岡山県小学校長会会長	國塩輝昭	岡山県高等学校長協会会長
	坂田注	岡山県立大学教授	坂田注	岡山県立大学教授
	田中泰彦	岡山県中学校長会会長	佐藤信	BC取締役
	戸村彰孝	岡山県高等学校長協会会長	佐藤美登利	岡山県国公立幼稚園長会会長
	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長	親亮一	岡山県中学校長会会長
	長尾俊男	福武書店社長室室長	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長
	服部静香	岡山県国公立幼稚園長会会長	中村通郎	岡山県小学校長会会長
	福武信子	会社役員	福武信子	会社役員
	松浦正義	岡山大学教育学部教授	松浦正義	岡山大学教育学部教授
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	村岡英臣	福武書店取締役	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長
	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長		
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	蓬郷三郎	福武書店監査役	村岡英臣	BC常勤監査役

評議員	秋山和夫	岡山大学教育学部教授	秋山和夫	山陽学園大学副学長
	石井稔	山陽放送専務取締役	石井稔	山陽放送専務取締役
	大嶋知之	福武書店部長	今村庸夫	BC 中学部部長
	大塚彌太郎	福武書店部長	大塚彌太郎	BC 総務部部長
	奥山桂	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	加賀道郎	岡山県私学校長会会長
	加賀道郎	岡山県私学校長会会長	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	片山肇	岡山県 PTA 連合会会長
	神原彰敬	岡山県私立幼稚園連盟理事長	神原彰敬	岡山県私立幼稚園連盟理事長
	竹内哲郎	就実短期大学短大部長	竹内哲郎	就実短期大学教授
	永井三郎	福武書店専務取締役	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長
	堀完一	岡山県町村教育長協議会会長	永井三郎	BC 専務取締役
	森学	岡山県 PTA 連合会会長	原田幸春	BC 高校部部長
	八木智	福武書店次長	堀完一	岡山県町村教育長協議会会長

平成8年度(1996)					平成9年度(1997)				
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長			谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長			
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長			福武總一郎	BC代表取締役社長			
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問			長尾俊男	BC社長室顧問			
理事	國塩輝昭	岡山県高等学校長協会会長			大山晋右	岡山県学校図書館協議会会長			
	坂田注	岡山県立大学教授			小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長			
	佐藤信	BC取締役			黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長			
	佐藤美登利	岡山県国公立幼稚園長会会長			小坂光一	岡山県小学校長会会長			
	玉光源爾	岡山県中学校長会会長			坂田注	岡山県立大学教授			
	中野宏	岡山県学校図書館協議会会長			佐藤信	BC取締役			
	福武信子	会社役員			福武信子	会社役員			
	松浦正義	岡山大学教育学部教授			古市誠嗣	岡山県高等学校長協会会長			
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長			松浦正義	就実女子大学教授			
	森崎岩之助	岡山県教育委員会教育長			宮地暢夫	岡山県立美術館館長			
	森谷浩平	岡山県小学校長会会長			吉廣俊三	岡山県中学校長会会長			
監事	甲元恒也	弁護士			甲元恒也	弁護士			
	村岡英臣	BC常勤監査役			植田博文	BC常勤監査役			

評議員	秋山和夫	山陽学園大学副学長			秋山和夫	山陽学園大学副学長			
	石井稔	山陽放送代表取締役社長			石井稔	山陽放送代表取締役社長			
	稲田晃	岡山県町村教育長協議会会長			稲田晃	岡山県町村教育長協議会会長			
	今村庸夫	BC中学部部長			今村庸夫	BC中学部部長			
	小川克保	BC総務部部長			小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授			
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授			加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長			
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長			片山肇	岡山県PTA連合会会長			
	片山肇	岡山県PTA連合会会長			小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授			
	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授			高旗正人	岡山大学教授			
	高旗正人	岡山大学教授			田村幸久	BC社長室室長			
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長			
	永井三郎	ベネッセグループ共済会理事長			永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長			
	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長			永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長			
	西本達二	岡山県私学協会会長			原田幸春	BC高校部部長			
	原田幸春	BC高校部部長			丸山哲朗	岡山県私学校長会会長			

平成10年度(1998)			平成11年度(1999)		
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	谷口澄夫	就実学園理事長・就実女子大学学長	
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長	
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問			
理事	小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長	小畑京子	岡山県国公立幼稚園長会会長	
	鴨頭脩	岡山県学校図書館協議会会長	鴨頭脩	岡山県学校図書館協議会会長	
	岸本憲二	岡山県高等学校長協会会長	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	
	楠田廉	岡山県中学校長会会長	坂田注	岡山大学名誉教授	
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	佐藤信	BC取締役	
	坂田注	岡山大学名誉教授	雙知正憲	岡山県小学校長会会長	
	佐藤信	BC取締役	長尾俊男	前BC社長室室長	
	福武信子	会社役員	難波征進	岡山県中学校長会会長	
	松浦正義	就実女子大学教授	野嶋淳一	岡山県高等学校長協会会長	
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	福武信子	南方エンタープライズ代表取締役会長	
	渡邊勝也	岡山県小学校長会会長	松浦正義	就実女子大学教授	
			宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役	
評議員	秋山和夫	山陽学園大学副学長	秋山和夫	山陽学園大学学長	
	石井稔	山陽放送代表取締役社長	石井稔	山陽放送代表取締役社長	
	今村庸夫	BC小中学校事業部部長	今村庸夫	BC文教開発部部長	
	榎本大一	岡山県町村教育長協議会会長	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	片山肇	岡山県PTA連合会会長	
	片山肇	岡山県PTA連合会会長	菅野増男	岡山県町村教育長会会長	
	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授	小寺聰	ノートルダム清心女子大学客員教授	
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	高旗正人	岡山大学教育学部教授	
	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	
	田村幸久	BC社長室室長	田村幸久	BC社長室室長	
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	
	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長	永宗幸哉	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	原田幸春	BC S&TSカンパニー本部長代行	原田幸春	BC東京支社長	

平成12年度(2000)			平成13年度(2001)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長	
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
理事	川井章三郎	岡山県学校図書館協議会会長	川上洋一	岡山県中学校長会会長	
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	国司宏	岡山県小学校長会会長	
	坂田注	岡山大学名誉教授	坂田注	岡山大学名誉教授	
	重利忠弘	岡山県中学校長会会長	平岩武	岡山県高等学校長協会会長	
	徳田公裕	岡山県小学校長会会長	平山武茂	BC取締役	
	野嶋淳一	岡山県高等学校長協会会長	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	
	平山武茂	BC取締役	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	森川直	岡山大学副学長	
	森川直	岡山大学副学長	森崎岩之助	岡山県生涯学習センター所長	
	森崎岩之助	岡山県生涯学習センター所長	山根健	岡山県学校図書館協議会会長	
	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役	
評議員	明田英治	BC S&TSカンパニー本部所属長	明田英治	BC小中学校事業部マネージャー	
	石井稔	山陽放送代表取締役社長	石井稔	山陽放送代表取締役社長	
	小澤定子	ノートルダム清心女子大学助教授	小澤定子	元ノートルダム清心女子大学助教授	
	加計勉	加計学園理事長・岡山理科大学総長	加計孝太郎	加計学園理事長	
	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	木原孝博	倉敷市立短期大学学長	
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
	山本啓史	岡山県町村教育長会副会長	高旗正人	岡山大学教育学部教授	
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	
	武内眞吾	岡山県私学協会副会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	吉田耕二	BC社長室室長	山本啓史	岡山県町村教育長会副会長	
			吉田耕二	BC秘書室室長	

平成14年度(2002)			平成15年度(2003)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
理事	大飼舜也	岡山県小学校長会会長	大嶋俊宣	岡山県学校図書館協議会会長	
	海本博允	岡山県高等学校長協会会長	奥津竹彦	岡山県高等学校長協会会長	
	大嶋俊宣	岡山県図書館協議会会長	坂田注	岡山大学名誉教授	
	坂田注	岡山大学名誉教授	中田勲	岡山県中学校長会会長	
	平山武茂	BC取締役	平山武茂	BC顧問	
	福武信子	フェイスコーポレーション代表取締役会長	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	森川直	岡山大学副学長	森川直	岡山大学教育学部部長	
	森崎岩之助	岡山県総合文化センター顧問	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
	守屋宣男	岡山県中学校長会会長	山本比香流	岡山県小学校長会会長	
	山本泉	岡山県国公立幼稚園長会会長	吉澤佳子	岡山県国公立幼稚園長会会長	
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士	
	植田博文	BC常勤監査役	植田博文	BC常勤監査役	
評議員	明田英治	BC S&TSカンパニー長	明田英治	BC執行役員 文教カンパニープレジデント	
	岡昌利	岡山県町村教育長会副会長	小坂進	岡山県町村教育長会副会長	
	加計孝太郎	加計学園理事長	加計孝太郎	加計学園理事長	
	木原孝博	倉敷市立短期大学学長	木原孝博	倉敷市立短期大学学長	
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
	高旗正人	岡山大学教育学部教授	高旗正人	岡山大学名誉教授	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	
	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	中村徹夫	岡山県PTA連合会会長	
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	
	原田三代治	岡山県私学協会会長	原田三代治	岡山県私学協会会長	
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長	

平成16年度(2004)			平成17年度(2005)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	
副理事長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
常任理事			森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
理事	明田英治	BC執行役員	明田英治	BC執行役員	
	大倉徹彦	山陽放送代表取締役社長	大倉徹彦	山陽放送代表取締役社長	
	坂田注	岡山大学名誉教授	坂田注	岡山大学名誉教授	
	高旗正人	中国短期大学教授・岡山大学名誉教授	高旗正人	中国短期大学教授・岡山大学名誉教授	
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授	
	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長	福武信子	フェイスコーポレーション取締役会長	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	森川直	岡山大学教育学部部長	
	森川直	岡山大学教育学部部長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士	
	植田博文	元BC常勤監査役	大塚彌太郎	元BC社長室室長	
評議員	家光大蔵	岡山県小学校長会会長	大山正治	岡山県中学校長会会長	
	小坂進	岡山県町村教育長会副会長	岡崎明宏	岡山県小学校長会会長	
	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	岡田浩明	岡山県高等学校長協会会長	
	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
	佐藤元信	岡山県私学協会会長	小山悦司	倉敷芸術科学大学教授	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	佐藤元信	岡山県私学協会会長	
	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	
	日笠紘	岡山県高等学校長協会会長	平野尚哉	岡山県町村教育長会副会長	
	福田宇一	岡山県中学校長会会長	三村玲子	岡山県国公立幼稚園長会会長	
	三村玲子	岡山県国公立幼稚園長会会長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	柳二郎	岡山県私立幼稚園連盟理事長	
	山本照雅	岡山県PTA連合会会長	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	
	吉田耕二	BC秘書室室長	山本照雅	岡山県PTA連合会長	
			吉田耕二	BC秘書室室長	

役員・評議員一覧／財団法人福武文化振興財団

(※ BC…ベネッセコーポレーション、BH…ベネッセホールディングス)

平成9年度(1997)			平成10年度(1998)		
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	谷口澄夫	就実学園理事長・倉敷芸術科学大学学長	
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長	
常任理事	長尾俊男	BC社長室顧問	長尾俊男	BC社長室顧問	
理事	井上元 柴田一 高橋克明 福武れい子 宮地暢夫 目瀬守男	山陽新聞社取締役論説主幹 就実女子大学文学部部長 岡山県立大学学長 会社役員 岡山県立美術館館長 岡山大学農学部教授	井上元 柴田一 高橋克明 福武れい子 宮地暢夫 目瀬守男	山陽新聞社取締役事業局長 就実女子大学文学部部長 岡山県立大学学長 会社役員 岡山県立美術館館長 美作女子大学学長	
監事	甲元恒也 永井三郎	弁護士 ベネッセグループアップルセンター理事長	甲元恒也 永井三郎	弁護士 ベネッセグループアップルセンター理事長	

評議員	片山浩子 黒瀬定生 谷口弥生 富岡要 戸村彰孝 丹羽英喜 福武信子 福武美津子 三宅親連 山内一則	岡山外語学院学院長 岡山県教育委員会教育長 岡山旭川ルネサンス代表 就実学園専務理事 岡山市教育委員会教育長 設計家 会社役員 会社役員 前香川県香川郡直島町長 岡山県総合文化センター館長	井上真澄 片山浩子 黒瀬定生 谷口弥生 富岡要 戸村彰孝 丹羽英喜 福武信子 福武美津子 三宅親連	岡山県総合文化センター館長 岡山外語学院学院長 岡山県教育委員会教育長 岡山旭川ルネサンス代表 就実学園専務理事 岡山市教育委員会教育長 設計家 会社役員 会社役員 前香川県香川郡直島町長
-----	--	---	--	---

平成18年度(2006)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	大倉徹彦 坂田注 佐藤信 高旗正人 沼本和子 福武れい子 森川直	山陽放送代表取締役社長 岡山大学名誉教授 ベル学園副理事長 中国短期大学教授・岡山大学名誉教授 ノートルダム清心女子大学名誉教授 フェイスコーポレーション代表取締役社長 岡山大学教育学部学長
監事	西田三千代 大塚彌太郎	西田法律事務所弁護士 元BC社長室室長

評議員	明田英治 門野八洲雄 小寺聰 小山悦司 佐川弘治郎 佐藤元信 柴岡元 武泰稔 永井三郎 菱川成雄 三村玲子 柳二郎 山根文男 山本照雅 吉田耕二	BC執行役員 岡山県教育委員会教育長 山陽新聞社論説顧問 倉敷芸術科学大学教授 岡山県中学校長会会長 岡山県私学協会会長 岡山県高等学校長会会長 岡山県町村教育長会会長 元BC専務取締役 岡山県小学校長会会長 岡山県国公立幼稚園長会会長 岡山県私立幼稚園連盟理事長 岡山県都市教育委員会教育長協議会会長 岡山県PTA連合会長 BC渉外部担当部部长
-----	--	---

平成11年度(1999)			平成12年度(2000)	
理事長	谷口澄夫	就実学園理事長・就実女子大学学長	福武總一郎	BC代表取締役社長
副理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
理事	越宗孝昌	山陽新聞社取締役編集局長	越宗孝昌	山陽新聞社常務取締役編集局長
	柴田一	就実女子大学文学部部長	柴田一	就実女子大学学長
	高橋克明	岡山県立大学学長	高橋克明	岡山大学名誉教授
	長尾俊男	前BC社長室長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	福武れい子	南方エンタープライズ代表取締役社長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	目瀬守男	美作女子大学学長
	目瀬守男	美作女子大学学長		
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	加原耕作	岡山県立博物館館長	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授
	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長	葛原克人	岡山県立博物館館長
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	黒瀬定生	岡山県教育委員会教育長
	田村幸久	BC社長室室長	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	富岡要	就実学園専務理事	玉光源爾	岡山市教育委員会教育長
	戸村彰孝	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	吉田耕二	BC社長室室長
	福武美津子	南方エンタープライズ取締役		

平成13年度(2001)			平成14年度(2002)	
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長	福武總一郎	BC代表取締役社長
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問
理事	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役
	柴田一	就実女子大学学長	柴田一	就実女子大学学長
	高橋克明	岡山大学名誉教授	高橋克明	岡山大学名誉教授
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長
	目瀬守男	美作女子大学学長	目瀬守男	美作女子大学学長
監事	甲元恒也	弁護士	甲元恒也	弁護士
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授
	谷口弥生	音楽プロデューサー	谷口弥生	音楽プロデューサー
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議会会長
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役
	松井新一	岡山県立博物館館長	松井新一	岡山県立博物館館長
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長

平成15年度(2003)			平成16年度(2004)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役社長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
理事	越宗孝昌	山陽新聞社専務取締役	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務	
	柴田一	就実大学学長	柴田一	就実大学学長	
	高橋克明	岡山大学名誉教授	高橋克明	岡山大学名誉教授	
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	
	目瀬守男	美作大学学長	目瀬守男	美作大学学長	
			森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
監事	甲元恒也	弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士	
	永井三郎	ベネッセグループアップルセンター理事長	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	
評議員	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長	
	加原耕作	川崎医療福祉大学助教授	加原耕作	川崎医療福祉大学教授	
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	高山雅之	岡山県郷土文化財団常務理事	
	玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	
			玉光源爾	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役			
	広江寿彦	岡山県総合文化センター館長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	能登原巧	岡山県立博物館館長	
	松井新一	岡山県立博物館館長	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	
	吉田耕二	BC秘書室室長	吉田耕二	BC秘書室室長	

平成17年度(2005)			平成18年度(2006)		
理事長	福武總一郎	BC代表取締役会長兼CEO	福武總一郎	BC代表取締役会長	
副理事長	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	小寺聰	山陽新聞社論説顧問	
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	
理事	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役専務	
	柴田一	元就実大学学長	佐藤信	ベル学園副理事長	
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	柴田一	元就実大学学長・就実大学名誉教授	
	宮地暢夫	岡山県立美術館館長	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長	
	目瀬守男	美作大学学長	本田茂伸	元岡山県副知事	
			目瀬守男	美作大学学長	
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士	
	永井三郎	フェイスコーポレーション顧問	永井三郎	元BC専務取締役	
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	芦田和正	岡山県立博物館館長	
	片山浩子	岡山外語学院学院長	臼井洋輔	吉備国際大学教授	
	高山雅之	岡山県郷土文化財団顧問	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	
	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	片山浩子	岡山外語学院学院長	
	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	門野八洲雄	岡山県教育委員会教育長	
	能登原巧	岡山県立博物館館長	高山雅之	岡山県郷土文化財団顧問	
	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	
	宮野正司	岡山県教育委員会教育長	丹羽英喜	丹羽建築設計事務所代表取締役	
	山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	福武美津子	フェイスコーポレーション取締役	
			山根文男	岡山県都市教育委員会教育長協議 会会長	
	吉田耕二	BC秘書室室長			
			吉田耕二	BC渉外部担当部部長	

役員・評議員一覧／財団法人福武教育文化振興財団

(※ BH…ベネッセホールディングス)

平成19年度(2007)			平成20年度(2008)	
理事長	福武總一郎	BC 代表取締役会長兼 CEO	福武總一郎	BC 代表取締役会長兼 CEO
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長
理事	大倉徹彦	山陽放送相談役	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	福武れい子	efu 代表取締役社長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	目瀬守男	美作大学名誉学長
	坂田注	岡大名誉教授		
	佐藤信	ベル学園副理事長		
	柴田一	元就実大学学長		
	高旗正人	中国短期大学子ども学部長・岡山大 学名誉教授		
	沼本和子	ノートルダム清心女子大学名誉教授		
	福武純子	efu 取締役		
	福武れい子	フェイスコーポレーション代表取締役社長		
監事	目瀬守男	美作大学学長		
	森川直	岡山大学教育学部教授		
評議員	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	大塚彌太郎	元 BC 社長室長	沼澄夫	沼税理士事務所代表

平成21年度(2009)			平成22年度(2010)	
理事長	福武總一郎	BH 取締役会長	福武總一郎	BH 取締役会長
副理事長	本田茂伸	元岡山県副知事	本田茂伸	元岡山県副知事
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
	目瀬守男	美作大学名誉学長	目瀬守男	美作大学名誉学長
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼税理士事務所代表	沼澄夫	沼税理士事務所代表
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	岡山外語学院学院長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu 取締役	下妻道郎	efu 取締役
	千葉喬三	岡山大学学長	千葉喬三	岡山大学学長
	福武美津子	efu 代表取締役社長	福武美津子	efu 代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長

役員・評議員一覧／公益財団法人福武教育文化振興財団

(※ BH…ベネッセホールディングス)

平成24年度(2012)			平成25年度(2013)	
理事長	福武總一郎	BH 取締役会長	福武總一郎	BH 取締役会長
副理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長
常任理事	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長
理事	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表	谷口弥生	岡山旭川ルネサンス代表
	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	千葉喬三	就実学園理事長
	目瀬守男	美作大学名誉学長	蛭田二郎	彫刻家・日本芸術院会員
監事	西田三千代	西田法律事務所弁護士	西田三千代	西田法律事務所弁護士
	沼澄夫	沼税理士事務所代表	沼澄夫	瀬戸内会計事務所税理士
評議員	臼井洋輔	吉備国際大学教授	臼井洋輔	元吉備国際大学教授
	大倉徹彦	山陽放送相談役	大倉徹彦	山陽放送相談役
	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長
	片山浩子	岡山外語学院学院長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役社長
	下妻道郎	efu 取締役	島津義昭	岡山空港ターミナル代表取締役社長
	千葉喬三	就実学園理事長・前岡山大学学長	下妻道郎	efu 取締役
	福武美津子	efu 代表取締役社長	福武美津子	efu 代表取締役社長
	森崎岩之助	元岡山県教育委員会教育長	松本芳範	BH 常勤監査役

岡山県立美術館 岡山外語学院 山陽新聞社 岡山空港ターミナル 就実学園 美作大学 南方ホールディングス ベネッセホールディングス

元岡山県教育委員会 元岡山大学 元岡山県立美術館 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

元岡山県立美術館 元岡山外語学院 元山陽新聞社 元山陽放送 元吉備国際大学

平成26年度(2014)			平成27年度(2015)		
名誉顧問			福武總一郎	BH 最高顧問	
理事長	福武總一郎	BH 取締役会長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	
副理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	松浦俊明	efu 取締役	
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局長	中野行雄	元岡山県備前県民局局長	
理事	臼井洋輔	元吉備国際大学教授	臼井洋輔	元吉備国際大学教授	
	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	
	千葉喬三	就実学園理事長	千葉喬三	就実学園理事長	
監事	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 瀬戸内会計事務所税理士	西田三千代 沼澄夫	西田法律事務所弁護士 瀬戸内会計事務所税理士	
評議員	鍵岡正謹	岡山県立美術館館長	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役会長	
	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役会長	島津義昭	岡山空港ターミナル代表取締役社長	
	島津義昭	岡山空港ターミナル代表取締役社長	下妻道郎	efu 取締役	
	下妻道郎	efu 取締役	原憲一	山陽放送代表取締役社長	
	原憲一	山陽放送代表取締役社長	福武美津子	efu 代表取締役社長	
	福武美津子	efu 代表取締役社長	許南浩	岡山大学副学長	
	許南浩	岡山大学副学長	松本芳範	BH 常勤監査役	
	松本芳範	BH 常勤監査役	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	
	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	守安収	岡山県立美術館館長	

平成28年度(2016)			平成29年度(2017)		
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	
理事長	福武純子	南方ホールディングス代表取締役社長	松浦俊明	efu 取締役	
副理事長	松浦俊明	efu 取締役	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局長	中野行雄	元岡山県備前県民局局長	
理事	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	
	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	千葉喬三	加計学園相談役	
	千葉喬三	加計学園相談役・前就実学園理事長	福武美津子	efu 代表取締役社長	
監事	佐藤由美子 沼澄夫	佐藤法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表	佐藤由美子 沼澄夫	奥田法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表	
評議員	越宗孝昌	山陽新聞社代表取締役会長	足羽憲治	前岡山県副知事	
	下妻道郎	efu 取締役	越宗孝昌	山陽新聞社取締役会長	
	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	下妻道郎	efu 取締役	
	原憲一	山陽放送代表取締役社長	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	
	福武美津子	efu 代表取締役社長	原憲一	山陽放送代表取締役会長	
	許南浩	岡山大学副学長	許南浩	倉敷芸術科学大学学長補佐	
	松本芳範	BH 常勤監査役	松本芳範	BH 常勤監査役	
	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	宮野正司	元岡山県教育委員会教育長	
	守安収	岡山県立美術館館長	守安収	岡山県立美術館館長	

平成30年度(2018)			令和元年度(2019)		
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	
理事長	松浦俊明	efu 取締役	松浦俊明	efu 取締役	
副理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局长	中野行雄	元岡山県備前県民局局长	
理事	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	
	福武美津子	株式会社サークルハウスコーポレーション代表取締役社長	福武美津子	efu 代表取締役社長	
	森田潔	一般社団法人 OUMC 理事長・前岡山大学学長	森田潔	川崎医科大学特任教授・前岡山大学学長	
監事	佐藤由美子 沼澄夫	奥田法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表	佐藤由美子 沼澄夫	奥田法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表	
評議員	足羽憲治	前岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長	足羽憲治	前岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長	
	越宗孝昌	山陽新聞社取締役会長	越宗孝昌	山陽新聞社取締役会長	
	下妻道郎	efu 取締役	下妻道郎	efu 取締役	
	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・日本教育公務員弘済会岡山県支部支部長	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・日本教育公務員弘済会岡山県支部支部長	
	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	
	原憲一	山陽放送代表取締役会長	原憲一	RSK ホールディングス代表取締役会長	
	許南浩	倉敷芸術科学大学学長補佐	許南浩	倉敷芸術科学大学副学長	
	松本芳範	BH 常勤監査役	松本芳範	BH 常勤監査役	
	守安収	岡山県立美術館館長	守安収	岡山県立美術館館長	

令和2年度(2020)			令和3年度(2021)		
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	
理事長	松浦俊明	efu 取締役	松浦俊明	南方ホールディングス取締役	
副理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	片山浩子	アジアの風岡山外語学院理事長	
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局长	中野行雄	元岡山県備前県民局局长	
理事	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	谷一尚	林原美術館館長・山陽学園大学副学長	
	福武美津子	efu 代表取締役社長	福武美津子	南方ホールディングス取締役・イルグラノ代表取締役	
	森田潔	川崎医科大学特任教授・前岡山大学学長	森田潔	川崎医科大学特任教授・前岡山大学学長	
監事	佐藤由美子 沼澄夫	奥田法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表	佐藤由美子 沼澄夫	奥田法律事務所弁護士 沼澄夫税理士事務所代表	
評議員	足羽憲治	元岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長	足羽憲治	元岡山県副知事・岡山県信用保証協会会長	
	越宗孝昌	山陽新聞社相談役	大原あかね	大原美術館代表理事理事長	
	下妻道郎	efu 取締役	越宗孝昌	山陽新聞社相談役	
	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・日本教育公務員弘済会岡山県支部支部長	下妻道郎	南方ホールディングス取締役	
	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・日本教育公務員弘済会岡山県支部支部長	
	原憲一	RSK ホールディングス代表取締役会長	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	
	許南浩	倉敷芸術科学大学副学長	原憲一	RSK ホールディングス代表取締役会長	
	松本芳範	BH 常勤監査役	松本芳範	BH 常勤監査役	
	守安収	岡山県立美術館館長	守安収	岡山県立美術館館長	

令和4年度(2022)			令和5年度(2023)		
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	
理事長	松浦俊明	南方ホールディングス取締役	松浦俊明	南方ホールディングス取締役	
副理事長	片山浩子	学校法人アジアの風理事長	片山浩子	学校法人アジアの風理事長	
常任理事	中野行雄	元岡山県備前県民局局長	小川隆正	元BH会長室室長	
理事	谷一 尚	林原美術館館長	谷一 尚	林原美術館館長	
	福武美津子	イルグラノー代表取締役	福武美津子	南方ホールディングス取締役	
	森田 潔	川崎医科大学特任教授・ 前岡山大学学長	森田 潔	川崎医科大学特任教授・ 元岡山大学学長	
監事	佐藤由美子	奥田法律事務所弁護士	佐藤由美子	奥田法律事務所弁護士	
	福原一義	福原一義公認会計士事務所所長	福原一義	福原一義公認会計士事務所所長	
評議員	足羽憲治	元岡山県副知事・岡山県土地開発 公社理事長	足羽憲治	元岡山県副知事・岡山県土地開発 公社理事長	
	大原あかね	大原美術館代表理事理事長	大原あかね	大原美術館代表理事理事長	
	越宗孝昌	山陽新聞社相談役	越宗孝昌	山陽新聞社相談役	
	下妻道郎	南方ホールディングス取締役	下妻道郎	南方ホールディングス取締役	
	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・日本教 育公務員弘済会岡山県支部支部長	竹井千庫	前岡山県教育委員会教育長・日本教 育公務員弘済会岡山県支部支部長	
	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	
	原 憲一	RSK山陽放送取締役相談役	原 憲一	RSKホールディングス取締役相談役	
	松本芳範	BH 常勤監査役	松本芳範	BH 常勤監査役	
	守安 收	岡山県立美術館館長	守安 收	岡山県立美術館館長	

令和6年度(2024)			令和7年度(2025)		
名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	福武總一郎	BH 名誉顧問	
理事長	松浦俊明	南方ホールディングス代表取締役	松浦俊明	南方ホールディングス代表取締役	
副理事長	片山浩子	学校法人アジアの風理事長	片山浩子	学校法人アジアの風理事長	
常任理事	小川隆正	元BH会長室室長	小川隆正	元BH会長室室長	
理事	谷一 尚	林原美術館館長	谷一 尚	林原美術館館長	
	福武美津子	イルグラノー代表取締役	福武美津子	イルグラノー代表取締役	
	森田 潔	川崎医科大学特任教授・ 元岡山大学学長	森田 潔	川崎医科大学特任教授・ 元岡山大学学長	
監事	福原一義	福原一義公認会計士事務所所長	福原一義	福原一義公認会計士事務所所長	
	和田朝治	和田・小田法律事務所弁護士	和田朝治	和田・小田法律事務所弁護士	
評議員	大原あかね	大原芸術財団代表理事	大原あかね	大原芸術財団代表理事	
	鍵本芳明	前岡山県教育委員会教育長・岡山 大学学術研究院教育学域教授	鍵本芳明	前岡山県教育委員会教育長・岡山 大学学術研究院教育学域教授	
	越宗孝昌	山陽新聞社相談役	越宗孝昌	山陽新聞社相談役	
	下妻道郎	南方ホールディングス取締役	下妻道郎	南方ホールディングス取締役	
	高橋正勝	BH 本社・直島統轄部部长	高橋正勝	BC 直島担当本部長	
	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	中島義雄	ナカシマホールディングス常務取締役	
	原 憲一	RSKホールディングス取締役相談役	原 憲一	RSKホールディングス相談役	
	守安 收	岡山県立美術館館長	守安 收	岡山県立美術館館長	
	横田有次	前岡山県副知事・岡山県信用保証 協会会長	横田有次	前岡山県副知事・岡山県信用保証 協会会長	

表紙について

表紙では、「人との縁のつながり」や「円満・調和・繁栄」を象徴する吉祥紋である「輪違紋」を象徴的に用いました。「福武トレス」の「Fサロン」に使用されている

襖の腰模様から着想を得ています。通常2個以上の輪（○）を組み合わせた模様ですが、襖のそれはやや隙間がある輪（C）が用いられており魅力を感じました。隙間があるからつながることができ、新たな可能性を生むことを、輪（C）を組み合わせた様々な絵柄で表現しています。



タケシマレイコ (デザイナー・イラストレーター)

公益財団法人福武教育文化振興財団 設立40周年記念誌

2026年6月1日 発行

編・著 公益財団法人福武教育文化振興財団
発 行 公益財団法人福武教育文化振興財団
〒700-0034 岡山県岡山市北区高柳東町9-1
(株) ベネッセコーポレーション 高柳別館1階
TEL：086-221-5254 FAX：086-232-3190
URL：https://www.fukutake.or.jp
E-MAIL：eczaidan@fukutake.or.jp

編集協力・制作

株式会社吉備人

表紙デザイン・イラストレーション (p5)

タケシマレイコ

印 刷 研精堂印刷株式会社

製 本 日宝総合製本株式会社



福武教育文化振興財団
ウェブサイト



コミュニケーション・マガジン
and F | アンドエフ



教育文化活動助成
成果報告書アーカイブ